

本資料のうち、枠囲みの  
内容は、機密事項に属し  
ますので公開できませ

柏崎刈羽原子力発電所第7号機 工事計画審査資料	
資料番号	KK7補足-028-7 改0
提出年月日	2020年5月1日

## 加振試験についての補足説明資料

2020年5月

東京電力ホールディングス株式会社

## 目 次

1. 概要 .....	1
2. 加振試験の概要 .....	2
3. 模擬地震波（ランダム波）を用いた加振試験について .....	96
4. 評価用加速度の設定について .....	107

## 1. 概要

耐震計算に用いる機能確認済加速度のうち、V-2-1-9「機能維持の基本方針」に示す動的機器の機能確認済加速度以外のものについては、メーカ等において確認している加振試験に基づく値を用いている。

「2. 加振試験の概要」に、これら加振試験の概要について示す。

「3. 模擬地震波（ランダム波）を用いた加振試験について」に、加振試験のうち模擬地震動波を用いたケースにおける試験の概要及び包絡性について示す。

「4. 評価用加速度の設定について」に、機能維持評価に用いた評価用加速度の妥当性について示す。

なお、本資料以外で加振試験に関する説明を行っている補足説明資料を以下の表 1-1 に整理した。

表 1-1 加振試験に関する補足説明資料リスト

資料番号	資料名	備考
KK7 補足-028-9	可搬型重大事故等対処設備の耐震性に関する説明書に係る補足説明資料	車両型設備 その他設備
KK7 補足-028-10	11. 高圧代替注水系ポンプの耐震性についての計算書に関する補足説明資料	—
	14. ドレン移送ポンプの耐震性についての計算書に関する補足説明資料	—
	15. 第一ガスタービン発電機の耐震性についての計算書に関する補足説明資料	—
	21. 燃料取替床ブローアウトパネル閉止装置の耐震性について	—

2. 加振試験の概要

設備	記載箇所	評価部位	要求機能	加振方向	試験内容	機能確認済加速度 ( $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ )	判定基準
7号機地下水排水設備 (サブドレンポンプ)	V-2-2-別添 1-2-2	ポンプ	地震後の動的機能	水平 2 方向と鉛直の 3 方向同時	<p>1. 共振点検索試験  <math>\square</math> の周波数領域を含むランダム波を入力し、応答波形から共振点が <math>\square</math> であることを確認</p> <p>2. ランダム波加振試験                      基準地震動 (Ss-1~Ss-8) における設計用床応答曲線を上回るように設定したランダム波での加振試験を行い、機能が維持されることを確認。</p>	水平 : 0.86 鉛直 : 1.0	加振後に正常に動作すること
地下水排水設備水位	V-2-2-別添 1-2-4	電極式水位検出器	地震後の電気的機能	水平単独 2 方向及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験  <math>\square</math> の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が <math>\square</math> であることを確認。</p> <p>2. 正弦波加振試験  <math>\square</math> における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。</p>	水平 : $\square$ 鉛直 : $\square$	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位	要求機能	加振方向	試験内容	機能確認済加速度 ( $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ )	判定基準
サブドレン動力制御盤	V-2-2-別添 1-2-5	サブドレン動力 制御盤	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. サインビート波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：□ 鉛直：□	加振後に正常 に動作すること
5号機地下水排水設備 (サブドレンポンプ)	V-2-2-別添 1-3-2	ポンプ	地震後の動的機 能	水平 2 方向と鉛 直の 3 方向同時	1. 共振点検索試験 □の周波数領域を含むランダム波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認 2. ランダム波加振試験 基準地震動 (Ss-1~Ss-8) における設計 用床応答曲線を上回るように設定した ランダム波での加振試験を行い、機能が 維持されることを確認。	水平：0.86 鉛直：1.0	加振後に正常 に動作すること
地下水排水設備水位	V-2-2- 別 添 1-3-4	電極式水位検出 器	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：□ 鉛直：□	加振後に正常 に動作すること

設備	記載箇所	評価部位	要求機能	加振方向	試験内容	機能確認済加速度 ( $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ )	判定基準
サブドレン動力制御盤	V-2-2-別添 1-3-5	盤内の器具 	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験  の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が  であることを確認。 2. サインビート波加振試験  における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平 :  鉛直 : 	加振後に正常 に動作すること
使用済燃料貯蔵プール水位・温度 (SA)	V-2-4-2-3	熱電対	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験  の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が  であることを確認。 2. 正弦波加振試験  における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平 :  鉛直 : 	加振後に正常 に動作すること
使用済燃料貯蔵プール水位・温度 (SA 広域)	V-2-4-2-4	熱電対	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験  の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が  であることを確認。 2. 正弦波加振試験  における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平 :  鉛直 : 	加振後に正常 に動作すること

設備	記載箇所	評価部位	要求機能	加振方向	試験内容	機能確認済加速度 ( $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ )	判定基準
使用済燃料貯蔵プール監視カメラ	V-2-4-2-5	赤外線カメラ	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験  <math>\square</math> の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が <math>\square</math> であることを確認。</p> <p>2. 正弦波加振試験  <math>\square</math> における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。</p>	水平: $\square$ 鉛直: $\square$	加振後に正常に動作すること
使用済燃料貯蔵プール監視カメラ 用空冷装置	V-2-4-2-6 (1)	コンプレッサ	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験  <math>\square</math> の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が <math>\square</math> (X 方向), <math>\square</math> (Y 方向), <math>\square</math> (Z 方向) であることを確認。</p> <p>2. サインビート波加振試験  <math>\square</math> (X 方向), <math>\square</math> (Y 方向), <math>\square</math> (Z 方向) における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。</p>	水平: $\square$ 鉛直: $\square$	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位	要求機能	加振方向	試験内容	機能確認済加速度 ( $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ )	判定基準
		冷却器	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験  <math>\square</math> の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が <math>\square</math> (X 方向), <math>\square</math> (Y 方向), <math>\square</math> (Z 方向) であることを確認。</p> <p>2. サインビート波加振試験  <math>\square</math> (X 方向), <math>\square</math> (Y 方向), <math>\square</math> (Z 方向) における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。</p>	水平: $\square$ 鉛直: $\square$	加振後に正常に動作すること
使用済燃料貯蔵プール監視カメラ 用空冷装置	V-2-4-2-6 (2)	エアクーラ	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験  <math>\square</math> の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が <math>\square</math> であることを確認。</p> <p>2. 正弦波加振試験  <math>\square</math> における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。</p>	水平: $\square$ 鉛直: $\square$	加振後に正常に動作すること
原子炉圧力	V-2-6-1(1)	弾性圧力検出器	地震時及び地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験  <math>\square</math> の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が <math>\square</math> であることを確認。</p> <p>2. 正弦波加振試験  <math>\square</math> における加振試験を行い、機能が維持されていることを確認。</p>	水平: $\square$ 鉛直: $\square$	加振中及び加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位	要求機能	加振方向	試験内容	機能確認済加速度 ( $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ )	判定基準
原子炉水位 (狭帯域)	V-2-6-1(2)	差圧式水位検出器	地震時及び地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [ ] の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [ ] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [ ] における加振試験を行い、機能が維持されていることを確認。	水平 : [ ] 鉛直 : [ ]	加振中及び加振後に正常に動作すること
原子炉水位 (広帯域)	V-2-6-1(3)	差圧式水位検出器	地震時及び地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [ ] の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [ ] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [ ] における加振試験を行い、機能が維持されていることを確認。	水平 : [ ] 鉛直 : [ ]	加振中及び加振後に正常に動作すること
格納容器内圧力	V-2-6-1(4)	弾性圧力検出器	地震時及び地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [ ] の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [ ] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [ ] における加振試験を行い、機能が維持されていることを確認。	水平 : [ ] 鉛直 : [ ]	加振中及び加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位	要求機能	加振方向	試験内容	機能確認済加速度 ( $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ )	判定基準
		弾性圧力検出器	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験  <math>\square</math> の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が <math>\square</math> であることを確認。</p> <p>2. 正弦波加振試験  <math>\square</math> における加振試験を行い、機能が維持されていることを確認。</p>	水平 : $\square$ 鉛直 : $\square$	加振後に正常に動作すること
原子炉系炉心流量	V-2-6-1(5)	差圧式流量検出器	地震時及び地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験  <math>\square</math> の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が <math>\square</math> であることを確認。</p> <p>2. 正弦波加振試験  <math>\square</math> における加振試験を行い、機能が維持されていることを確認。</p>	水平 : $\square$ 鉛直 : $\square$	加振中及び加振後に正常に動作すること
制御棒駆動機構充てん水圧力	V-2-6-1(6)	差圧式流量検出器	地震時及び地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験  <math>\square</math> の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が <math>\square</math> であることを確認。</p> <p>2. 正弦波加振試験  <math>\square</math> における加振試験を行い、機能が維持されていることを確認。</p>	水平 : $\square$ 鉛直 : $\square$	加振中及び加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位	要求機能	加振方向	試験内容	機能確認済加速度 ( $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ )	判定基準
サブプレッションチェンバプール水位	V-2-6-1(7)	差圧式水位検出器	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験  <math>\square</math> の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が <math>\square</math> であることを確認。</p> <p>2. 正弦波加振試験  <math>\square</math> における加振試験を行い、機能が維持されていることを確認。</p>	水平: $\square$ 鉛直: $\square$	加振後に正常に動作すること
		差圧式水位検出器	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験  <math>\square</math> の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が <math>\square</math> であることを確認。</p> <p>2. 正弦波加振試験  <math>\square</math> における加振試験を行い、機能が維持されていることを確認。</p>	水平: $\square$ 鉛直: $\square$	加振後に正常に動作すること
地震加速度	V-2-6-1(8)	地震加速度検出器	地震時の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験  <math>\square</math> の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が <math>\square</math> であることを確認。</p> <p>2. 正弦波加振試験  <math>\square</math> における加振試験を行い、機能が維持されていることを確認。</p>	水平: $\square$ 鉛直: $\square$	加振中に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位	要求機能	加振方向	試験内容	機能確認済加速度 ( $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ )	判定基準
主蒸気管トンネル温度	V-2-6-1(9)	熱電対	地震時の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験  <math>\square</math> の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が <math>\square</math> (X 方向), <math>\square</math> (Y 方向), <math>\square</math> (Z 方向) であることを確認。</p> <p>2. 正弦波加振試験  <math>\square</math> (X 方向), <math>\square</math> (Y 方向), <math>\square</math> (Z 方向) における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。</p>	水平: $\square$ 鉛直: $\square$	加振中に正常に動作すること
主蒸気管流量	V-2-6-1(10)	差圧式流量検出器	地震時の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験  <math>\square</math> の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が <math>\square</math> であることを確認。</p> <p>2. 正弦波加振試験  <math>\square</math> における加振試験を行い、機能が維持されていることを確認。</p>	水平: $\square$ 鉛直: $\square$	加振時に正常に動作すること
高压炉心注水系ポンプ吐出圧力	V-2-6-5-3	弾性圧力検出器	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験  <math>\square</math> の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が <math>\square</math> であることを確認。</p> <p>2. 正弦波加振試験  <math>\square</math> における加振試験を行い、機能が維持されていることを確認。</p>	水平: $\square$ 鉛直: $\square$	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位	要求機能	加振方向	試験内容	機能確認済加速度 ( $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ )	判定基準
残留熱除去系ポンプ吐出圧力	V-2-6-5-4	弾性圧力検出器	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 <input type="text"/> の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が <input type="text"/> であることを確認。 2. 正弦波加振試験 <input type="text"/> における加振試験を行い、機能が維持されていることを確認。	水平 : <input type="text"/> 鉛直 : <input type="text"/>	加振後に正常に動作すること
残留熱除去系熱交換器入口温度	V-2-6-5-5	熱電対	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 <input type="text"/> の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が <input type="text"/> であることを確認。 2. 正弦波加振試験 <input type="text"/> における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平 : <input type="text"/> 鉛直 : <input type="text"/>	加振後に正常に動作すること
残留熱除去系熱交換器出口温度	V-2-6-5-6	熱電対	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 <input type="text"/> の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が <input type="text"/> であることを確認。 2. 正弦波加振試験 <input type="text"/> における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平 : <input type="text"/> 鉛直 : <input type="text"/>	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位	要求機能	加振方向	試験内容	機能確認済加速度 ( $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ )	判定基準
復水補給水系温度 (代替循環冷却)	V-2-6-5-7	熱電対	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験  <input type="text"/>の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が<input type="text"/>であることを確認。</p> <p>2. 正弦波加振試験  <input type="text"/>における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。</p>	水平: <input type="text"/> 鉛直: <input type="text"/>	加振後に正常に動作すること
残留熱除去系系統流量	V-2-6-5-8	差圧式流量検出器	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験  <input type="text"/>の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が<input type="text"/>であることを確認。</p> <p>2. 正弦波加振試験  <input type="text"/>における加振試験を行い、機能が維持されていることを確認。</p>	水平: <input type="text"/> 鉛直: <input type="text"/>	加振後に正常に動作すること
原子炉隔離時冷却系系統流量	V-2-6-5-9	差圧式流量検出器	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験  <input type="text"/>の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が<input type="text"/>であることを確認。</p> <p>2. 正弦波加振試験  <input type="text"/>における加振試験を行い、機能が維持されていることを確認。</p>	水平: <input type="text"/> 鉛直: <input type="text"/>	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位	要求機能	加振方向	試験内容	機能確認済加速度 ( $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ )	判定基準
高压炉心注水系統流量	V-2-6-5-10	差圧式流量検出器	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験  <math>\square</math> の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が <math>\square</math> であることを確認。</p> <p>2. 正弦波加振試験  <math>\square</math> における加振試験を行い、機能が維持されていることを確認。</p>	水平: $\square$ 鉛直: $\square$	加振後に正常に動作すること
高压代替注水系統流量	V-2-6-5-11	差圧式流量検出器	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験  <math>\square</math> の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が <math>\square</math> であることを確認。</p> <p>2. 正弦波加振試験  <math>\square</math> における加振試験を行い、機能が維持されていることを確認。</p>	水平: $\square$ 鉛直: $\square$	加振後に正常に動作すること
復水補給水系流量 (RHR A 系代替注水流量)	V-2-6-5-12	差圧式流量検出器	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験  <math>\square</math> の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が <math>\square</math> であることを確認。</p> <p>2. 正弦波加振試験  <math>\square</math> における加振試験を行い、機能が維持されていることを確認。</p>	水平: $\square$ 鉛直: $\square$	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位	要求機能	加振方向	試験内容	機能確認済加速度 ( $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ )	判定基準
復水補給水系流量 (RHR B 系代替注水流速)	V-2-6-5-13	差圧式流量検出器	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験  <math>\square</math> の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が <math>\square</math> であることを確認。</p> <p>2. 正弦波加振試験  <math>\square</math> における加振試験を行い、機能が維持されていることを確認。</p>	水平: $\square$ 鉛直: $\square$	加振後に正常に動作すること
原子炉圧力	V-2-6-5-14	弾性圧力検出器	地震時及び地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験  <math>\square</math> の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が <math>\square</math> であることを確認。</p> <p>2. 正弦波加振試験  <math>\square</math> における加振試験を行い、機能が維持されていることを確認。</p>	水平: $\square$ 鉛直: $\square$	加振中及び加振後に正常に動作すること
原子炉圧力 (SA)	V-2-6-5-15	弾性圧力検出器	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験  <math>\square</math> の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が <math>\square</math> であることを確認。</p> <p>2. 正弦波加振試験  <math>\square</math> における加振試験を行い、機能が維持されていることを確認。</p>	水平: $\square$ 鉛直: $\square$	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位	要求機能	加振方向	試験内容	機能確認済加速度 ( $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ )	判定基準
原子炉水位 (広帯域)	V-2-6-5-16	差圧式水位検出器	地震時及び地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験  <input type="text"/> の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が <input type="text"/> であることを確認。</p> <p>2. 正弦波加振試験  <input type="text"/> における加振試験を行い、機能が維持されていることを確認。</p>	水平 : <input type="text"/> 鉛直 : <input type="text"/>	加振中及び加振後に正常に動作すること
原子炉水位 (燃料域)	V-2-6-5-17	差圧式水位検出器	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験  <input type="text"/> の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が <input type="text"/> であることを確認。</p> <p>2. 正弦波加振試験  <input type="text"/> における加振試験を行い、機能が維持されていることを確認。</p>	水平 : <input type="text"/> 鉛直 : <input type="text"/>	加振後に正常に動作すること
原子炉水位 (SA)	V-2-6-5-18	差圧式水位検出器	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験  <input type="text"/> の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が <input type="text"/> であることを確認。</p> <p>2. 正弦波加振試験  <input type="text"/> における加振試験を行い、機能が維持されていることを確認。</p>	水平 : <input type="text"/> 鉛直 : <input type="text"/>	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位	要求機能	加振方向	試験内容	機能確認済加速度 ( $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ )	判定基準
格納容器内圧力 (D/W)	V-2-6-5-19	弾性圧力検出器	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験  <input type="text"/> の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が <input type="text"/> であることを確認。</p> <p>2. 正弦波加振試験  <input type="text"/> における加振試験を行い、機能が維持されていることを確認。</p>	水平 : <input type="text"/> 鉛直 : <input type="text"/>	加振後に正常に動作すること
格納容器内圧力 (S/C)	V-2-6-5-20	弾性圧力検出器	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験  <input type="text"/> の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が <input type="text"/> であることを確認。</p> <p>2. 正弦波加振試験  <input type="text"/> における加振試験を行い、機能が維持されていることを確認。</p>	水平 : <input type="text"/> 鉛直 : <input type="text"/>	加振後に正常に動作すること
ドライウェル雰囲気温度	V-2-6-5-21	熱電対	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験  <input type="text"/> の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が <input type="text"/> であることを確認。</p> <p>2. 正弦波加振試験  <input type="text"/> における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。</p>	水平 : <input type="text"/> 鉛直 : <input type="text"/>	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位	要求機能	加振方向	試験内容	機能確認済加速度 ( $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ )	判定基準
サブプレッションチェンバ気体温度	V-2-6-5-22	熱電対	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平 : □ 鉛直 : □	加振後に正常に動作すること
サブプレッションチェンバプール水温度	V-2-6-5-23	熱電対	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平 : □ 鉛直 : □	加振後に正常に動作すること
格納容器内酸素濃度	V-2-6-5-24	熱磁気風式酸素検出器	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. サインビート波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平 : □ 鉛直 : □	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位	要求機能	加振方向	試験内容	機能確認済加速度 ( $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ )	判定基準
格納容器内水素濃度	V-2-6-5-25	熱伝導式水素検出器	地震後の電気的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験  <math>\square</math> の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が <math>\square</math> であることを確認。</p> <p>2. サインビート波加振試験  <math>\square</math> における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。</p>	水平: $\square$ 鉛直: $\square$	加振後に正常に動作すること
格納容器水素 (SA)	V-2-6-5-26	水素吸蔵材料式水素検出器	地震後の電気的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験  <math>\square</math> の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が <math>\square</math> であることを確認。</p> <p>2. 正弦波加振試験  <math>\square</math> における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。</p>	水平: $\square$ 鉛直: $\square$	加振後に正常に動作すること
復水貯蔵槽水位 (SA)	V-2-6-5-27	差圧式水位検出器	地震後の電気的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験  <math>\square</math> の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が <math>\square</math> であることを確認。</p> <p>2. 正弦波加振試験  <math>\square</math> における加振試験を行い、機能が維持されていることを確認。</p>	水平: $\square$ 鉛直: $\square$	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位	要求機能	加振方向	試験内容	機能確認済加速度 ( $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ )	判定基準
復水補給水系流量 (格納容器下部注水流量)	V-2-6-5-28	差圧式流量検出器	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験  <math>\square</math> の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が <math>\square</math> であることを確認。</p> <p>2. 正弦波加振試験  <math>\square</math> における加振試験を行い、機能が維持されていることを確認。</p>	水平: $\square$ 鉛直: $\square$	加振後に正常に動作すること
サブプレッションチェンバプール水位	V-2-6-5-29	差圧式水位検出器	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験  <math>\square</math> の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が <math>\square</math> であることを確認。</p> <p>2. 正弦波加振試験  <math>\square</math> における加振試験を行い、機能が維持されていることを確認。</p>	水平: $\square$ 鉛直: $\square$	加振後に正常に動作すること
格納容器下部水位	V-2-6-5-30	電極式水位検出器	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験  <math>\square</math> の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が <math>\square</math> であることを確認。</p> <p>2. 正弦波加振試験  <math>\square</math> における加振試験を行い、機能が維持されていることを確認。</p>	水平: $\square$ 鉛直: $\square$	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位	要求機能	加振方向	試験内容	機能確認済加速度 ( $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ )	判定基準
原子炉建屋水素濃度	V-2-6-5-31	熱伝導式水素検出器	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験  <input type="text"/>の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が<input type="text"/>であることを確認。</p> <p>2. サインビート波加振試験  <input type="text"/>における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。</p>	水平： <input type="text"/> 鉛直： <input type="text"/>	加振後に正常に動作すること
ATWS 緩和設備（代替制御棒挿入機能） ・検出器	V-2-6-7-1 (1)	差圧式水位検出器	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験  <input type="text"/>の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が<input type="text"/>であることを確認。</p> <p>2. 正弦波加振試験  <input type="text"/>における加振試験を行い、機能が維持されていることを確認。</p>	水平： <input type="text"/> 鉛直： <input type="text"/>	加振後に正常に動作すること
		弾性圧力検出器	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験  <input type="text"/>の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が<input type="text"/>であることを確認。</p> <p>2. 正弦波加振試験  <input type="text"/>における加振試験を行い、機能が維持されていることを確認。</p>	水平： <input type="text"/> 鉛直： <input type="text"/>	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位	要求機能	加振方向	試験内容	機能確認済加速度 ( $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ )	判定基準
ATWS 緩和設備 (代替制御棒挿入機能) ・ ATWS 緩和設備制御盤	V-2-6-7-1 (2)	盤内器具 <input type="text"/>	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 <input type="text"/> の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が <input type="text"/> であることを確認。 2. 正弦波加振試験 <input type="text"/> における加振試験を行い、機能が維持されていることを確認。	水平 : <input type="text"/> 鉛直 : <input type="text"/>	加振後に正常に動作すること
ATWS 緩和設備 (代替制御棒挿入機能) ・ 代替制御棒挿入機能用電磁弁	V-2-6-7-1 (3)	電磁弁	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 <input type="text"/> の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が <input type="text"/> であることを確認。 2. 正弦波加振試験 <input type="text"/> における加振試験を行い、機能が維持されていることを確認。	水平 : <input type="text"/> 鉛直 : <input type="text"/>	加振後に正常に動作すること
ATWS 緩和設備 (代替冷却材再循環ポンプ・トリップ機能) ・ 検出器	V-2-6-7-2 (1)	差圧式水位検出器	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 <input type="text"/> の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が <input type="text"/> であることを確認。 2. 正弦波加振試験 <input type="text"/> における加振試験を行い、機能が維持されていることを確認。	水平 : <input type="text"/> 鉛直 : <input type="text"/>	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位	要求機能	加振方向	試験内容	機能確認済加速度 ( $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ )	判定基準
		差圧式水位検出器	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験  <input type="text"/> の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が <input type="text"/> であることを確認。</p> <p>2. 正弦波加振試験  <input type="text"/> における加振試験を行い、機能が維持されていることを確認。</p>	水平 : <input type="text"/> 鉛直 : <input type="text"/>	加振後に正常に動作すること
ATWS 緩和設備 (代替冷却材再循環ポンプ・トリップ機能) ・原子炉冷却材再循環ポンプ可変周波数電源装置主回路	V-2-6-7-2 (2)	盤内の器具 <input type="text"/>	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験  <input type="text"/> の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が <input type="text"/> であることを確認。</p> <p>2. 正弦波加振試験  <input type="text"/> における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。</p>	水平 : <input type="text"/> 鉛直 : <input type="text"/>	加振後に正常に動作すること
ATWS 緩和設備 (代替冷却材再循環ポンプ・トリップ機能) ・原子炉冷却材再循環ポンプ可変周波数電源装置制御盤	V-2-6-7-2 (3)	盤内の器具 <input type="text"/>	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験  <input type="text"/> の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が <input type="text"/> であることを確認。</p> <p>2. サインビート波加振試験  <input type="text"/> における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。</p>	水平 : <input type="text"/> 鉛直 : <input type="text"/>	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位	要求機能	加振方向	試験内容	機能確認済加速度 ( $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ )	判定基準
		盤内の器具 [ ]	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [ ] の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [ ] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [ ] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平 : [ ] 鉛直 : [ ]	加振後に正常に動作すること
代替自動減圧ロジック (代替自動減圧機能) ・検出器	V-2-6-7-3 (1)	差圧式水位検出器	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [ ] の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [ ] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [ ] における加振試験を行い、機能が維持されていることを確認。	水平 : [ ] 鉛直 : [ ]	加振後に正常に動作すること
		弾性圧力検出器	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [ ] の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [ ] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [ ] における加振試験を行い、機能が維持されていることを確認。	水平 : [ ] 鉛直 : [ ]	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位	要求機能	加振方向	試験内容	機能確認済加速度 ( $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ )	判定基準
代替自動減圧ロジック（代替自動減圧機能） ・安全系多重伝送盤	V-2-6-7-3 (2)	盤内器具 □	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されていることを確認。	水平：□ 鉛直：□ ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること
		盤内器具 □	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：□ 鉛直：□ ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること
		盤内器具 □	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. サインビート波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されていることを確認。	水平：□ 鉛直：□ ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位	要求機能	加振方向	試験内容	機能確認済加速度 ( $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ )	判定基準
代替自動減圧ロジック (代替自動減圧機能) ・安全系補助継電器盤	V-2-6-7-3 (3)	盤内器具 <input type="text"/>	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 <input type="text"/> の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が <input type="text"/> であることを確認。 2. 正弦波加振試験 <input type="text"/> における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： <input type="text"/> 鉛直： <input type="text"/> ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること
ESF 盤	V-2-6-7-4 (1)	盤内の器具 <input type="text"/>	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 <input type="text"/> の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が <input type="text"/> であることを確認。 2. 正弦波加振試験 <input type="text"/> における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： <input type="text"/> 鉛直： <input type="text"/> ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること
		盤内の器具 <input type="text"/>	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 <input type="text"/> の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が <input type="text"/> であることを確認。 2. サインビート波加振試験 <input type="text"/> における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： <input type="text"/> 鉛直： <input type="text"/> ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位	要求機能	加振方向	試験内容	機能確認済加速度 ( $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ )	判定基準
		盤内の器具 [ ]	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験 [ ]の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [ ] であることを確認。</p> <p>2. サインビート波加振試験 [ ]における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。</p>	水平： [ ] 鉛直： [ ] ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること
		盤内の器具 [ ]	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験 [ ]の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [ ] であることを確認。</p> <p>2. 正弦波加振試験 [ ]における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。</p>	水平： [ ] 鉛直： [ ] ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること
安全保護系盤	V-2-6-7-4 (2)	盤内の器具 [ ]	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験 [ ]の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [ ] であることを確認。</p> <p>2. 正弦波加振試験 [ ]における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。</p>	水平： [ ] 鉛直： [ ] ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位	要求機能	加振方向	試験内容	機能確認済加速度 ( $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ )	判定基準
		盤内の器具 [ ]	地震時及び地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験 [ ]の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [ ] であることを確認。</p> <p>2. サインビート波加振試験 [ ]における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。</p>	水平： [ ] 鉛直： [ ] ※下線部が工認記載値	加振時及び加振後に正常に動作すること
		盤内の器具 [ ]	地震時及び地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験 [ ]の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [ ] であることを確認。</p> <p>2. サインビート波加振試験 [ ]における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。</p>	水平： [ ] 鉛直： [ ] ※下線部が工認記載値	加振時及び加振後に正常に動作すること
		盤内の器具 [ ]	地震時及び地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験 [ ]の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [ ] であることを確認。</p> <p>2. 正弦波加振試験 [ ]における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。</p>	水平： [ ] 鉛直： [ ] ※下線部が工認記載値	加振時及び加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位	要求機能	加振方向	試験内容	機能確認済加速度 ( $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ )	判定基準
中央制御室外原子炉停止制御盤	V-2-6-7-4 (3)	盤内の器具 □	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. メーカー試験 (カタログ値) により、機能が維持されることを確認。	水平: □ 鉛直: □ ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること
		盤内器具 □	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されていることを確認。	水平: □ 鉛直: □ ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること
		盤内の器具 □	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平: □ 鉛直: □ ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位	要求機能	加振方向	試験内容	機能確認済加速度 ( $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ )	判定基準
中央運転監視盤	V-2-6-7-4 (4)	盤内の器具 	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験  の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が  であることを確認。 2. サインビート波加振試験  における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：  鉛直： 	加振後に正常に動作すること
運転監視補助盤 1	V-2-6-7-4 (5)	盤内の器具 	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験  の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が  であることを確認。 2. 正弦波加振試験  における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：  鉛直：  ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること
		盤内の器具 	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験  の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が  であることを確認。 2. 正弦波加振試験  における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：  鉛直：  ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位	要求機能	加振方向	試験内容	機能確認済加速度 ( $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ )	判定基準
		盤内の器具 <input type="text"/>	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 <input type="text"/> の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が <input type="text"/> であることを確認。 2. サインビート波加振試験 <input type="text"/> における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： <input type="text"/> 鉛直： <input type="text"/> ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること
		盤内の器具 <input type="text"/>	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 <input type="text"/> の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が <input type="text"/> であることを確認。 2. 正弦波加振試験 <input type="text"/> における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： <input type="text"/> 鉛直： <input type="text"/> ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること
		盤内の器具 <input type="text"/>	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 <input type="text"/> の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が <input type="text"/> であることを確認。 2. サインビート波加振試験 <input type="text"/> における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： <input type="text"/> 鉛直： <input type="text"/> ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位	要求機能	加振方向	試験内容	機能確認済加速度 ( $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ )	判定基準
運転監視補助盤 2	V-2-6-7-4 (5)	盤内の器具 [ ]	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験 [ ] の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [ ] であることを確認。</p> <p>2. 正弦波加振試験 [ ] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。</p>	水平： [ ] 鉛直： [ ] ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること
		盤内の器具 [ ]	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験 [ ] の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [ ] であることを確認。</p> <p>2. 正弦波加振試験 [ ] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。</p>	水平： [ ] 鉛直： [ ] ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位	要求機能	加振方向	試験内容	機能確認済加速度 ( $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ )	判定基準
		盤内の器具 [ ]	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験 [ ]の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [ ] であることを確認。</p> <p>2. 正弦波加振試験 [ ] (X, Y 方向) における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。</p> <p>3. サインビート波加振試験 [ ] (Z 方向) における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。</p>	水平: [ ] 鉛直: [ ] ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること
原子炉系記録計盤	V-2-6-7-4 (6)	盤内の器具 [ ]	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験 [ ]の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [ ] であることを確認。</p> <p>2. サインビート波加振試験 [ ] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。</p>	水平: [ ] 鉛直: [ ] ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位	要求機能	加振方向	試験内容	機能確認済加速度 ( $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ )	判定基準
		盤内の器具 [ ]	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験 [ ]の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [ ] であることを確認。</p> <p>2. 正弦波加振試験 [ ]における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。</p>	水平： [ ] 鉛直： [ ] ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること
		盤内の器具 [ ]	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験 [ ]の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [ ] であることを確認。</p> <p>2. 正弦波加振試験 [ ]における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。</p>	水平： [ ] 鉛直： [ ] ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること
		盤内の器具 [ ]	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験 [ ]の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [ ] であることを確認。</p> <p>2. 正弦波加振試験 [ ]における加振試験を行い、機能が維持されていることを確認。</p>	水平： [ ] 鉛直： [ ] ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位	要求機能	加振方向	試験内容	機能確認済加速度 ( $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ )	判定基準
		盤内の器具 [ ]	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [ ] の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [ ] であることを確認。 2. サインビート波加振試験 [ ] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： [ ] 鉛直： [ ] ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること
		盤内の器具 [ ]	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [ ] の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [ ] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [ ] における加振試験を行い、機能が維持されていることを確認。	水平： [ ] 鉛直： [ ] ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること
		盤内の器具 [ ]	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [ ] の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [ ] であることを確認。 2. サインビート波加振試験 [ ] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： [ ] 鉛直： [ ] ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位	要求機能	加振方向	試験内容	機能確認済加速度 ( $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ )	判定基準
		盤内の器具 [ ]	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験 [ ] の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [ ] であることを確認。</p> <p>2. サインビート波加振試験 [ ] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。</p>	水平： [ ] 鉛直： [ ] ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること
		盤内の器具 [ ]	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験 [ ] の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [ ] であることを確認。</p> <p>2. 正弦波加振試験 [ ] における加振試験を行い、機能が維持されていることを確認。</p>	水平： [ ] 鉛直： [ ] ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること
		盤内の器具 [ ]	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験 [ ] の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [ ] であることを確認。</p> <p>2. 正弦波加振試験 [ ] における加振試験を行い、機能が維持されていることを確認。</p>	水平： [ ] 鉛直： [ ] ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位	要求機能	加振方向	試験内容	機能確認済加速度 ( $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ )	判定基準
格納容器補助盤	V-2-6-7-4 (7)	盤内の器具 [ ]	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [ ] の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [ ] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [ ] における加振試験を行い、機能が維持されていることを確認。	水平: [ ] 鉛直: [ ]	加振後に正常に動作すること
		盤内の器具 [ ]	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [ ] の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [ ] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [ ] における加振試験を行い、機能が維持されていることを確認。	水平: [ ] 鉛直: [ ]	加振後に正常に動作すること
高压代替注水系制御盤	V-2-6-7-4 (8)	盤内の器具 [ ]	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [ ] の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [ ] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [ ] における加振試験を行い、機能が維持されていることを確認。	水平: [ ] 鉛直: [ ] ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位	要求機能	加振方向	試験内容	機能確認済加速度 ( $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ )	判定基準
		盤内の器具 [ ]	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [ ] の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [ ] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [ ] における加振試験を行い、機能が維持されていることを確認。	水平： [ ] 鉛直： [ ] ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること
		盤内の器具 [ ]	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [ ] の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [ ] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [ ] における加振試験を行い、機能が維持されていることを確認。	水平： [ ] 鉛直： [ ] ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること
		盤内の器具 [ ]	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [ ] の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [ ] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [ ] における加振試験を行い、機能が維持されていることを確認。	水平： [ ] 鉛直： [ ] ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位	要求機能	加振方向	試験内容	機能確認済加速度 ( $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ )	判定基準
使用済燃料貯蔵プール水位・温度 (SA 広域) 監視制御盤	V-2-6-7-4 (9)	盤内の器具 [ ]	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [ ] の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [ ] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [ ] における加振試験を行い、機能が維持されていることを確認。	水平： [ ] 鉛直： [ ]	加振後に正常 に動作すること
格納容器圧力逃がし装置制御盤	V-2-6-7-4 (10)	盤内の器具 [ ]	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [ ] の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [ ] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [ ] における加振試験を行い、機能が維持されていることを確認。	水平： [ ] 鉛直： [ ] ※下線部が工認記載値	加振後に正常 に動作すること
		盤内の器具 [ ]	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [ ] の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [ ] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [ ] における加振試験を行い、機能が維持されていることを確認。	水平： [ ] 鉛直： [ ] ※下線部が工認記載値	加振後に正常 に動作すること

設備	記載箇所	評価部位	要求機能	加振方向	試験内容	機能確認済加速度 ( $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ )	判定基準
		盤内の器具 [ ]	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [ ] の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [ ] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [ ] における加振試験を行い、機能が維持されていることを確認。	水平: [ ] 鉛直: [ ] ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること
フィルタ装置出口放射線モニタ前置増幅器盤	V-2-6-7-4 (11)	前置増幅器	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [ ] の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [ ] (X,Z 方向), [ ] (Y 方向) であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [ ] における加振試験を行い、機能が維持されていることを確認。	水平: [ ] 鉛直: [ ]	加振後に正常に動作すること
起動領域モニタ前置増幅器盤	V-2-6-7-4 (12)	前置増幅器	地震時及び地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [ ] の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [ ] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [ ] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平: [ ] 鉛直: [ ]	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位	要求機能	加振方向	試験内容	機能確認済加速度 ( $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ )	判定基準
核計装系盤	V-2-6-7-4 (13)	盤内の器具 [ ]	地震時及び地震 後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [ ] の周波数領域を含む正弦波を入 力し、応答波形から共振点が [ ] で あることを確認。 2. 正弦波加振試験 [ ] における加振試験を行い、機能が 維持されることを確認。	水平： [ ] 鉛直： [ ] ※下線部が工認記 載値	加振中及び加 振後に正常に 動作すること
		盤内の器具 [ ]	地震時及び地震 後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [ ] の周波数領域を含む正弦波を入 力し、応答波形から共振点が [ ] で あることを確認。 2. サインビート波加振試験 [ ] における加振試験を行い、機能が維 持されることを確認。	水平： [ ] 鉛直： [ ] ※下線部が工認記 載値	加振中及び加 振後に正常に 動作すること
		盤内の器具 [ ]	地震時及び地震 後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [ ] の周波数領域を含む正弦波を入 力し、応答波形から共振点が [ ] で あることを確認。 2. サインビート波加振試験 [ ] における加振試験を行い、機能が維 持されることを確認。	水平： [ ] 鉛直： [ ] ※下線部が工認記 載値	加振中及び加 振後に正常に 動作すること

設備	記載箇所	評価部位	要求機能	加振方向	試験内容	機能確認済加速度 ( $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ )	判定基準
安全系プロセス放射線モニタ盤	V-2-6-7-4 (14)	盤内の器具 [ ]	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. メーカー試験 (カタログ値) により、機能が維持されることを確認。	水平: [ ] 鉛直: [ ]	加振後に正常に動作すること
格納容器内雰囲気モニタ盤	V-2-6-7-4 (15)	盤内の器具 [ ]	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [ ] の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [ ] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [ ] における加振試験を行い、機能が維持されていることを確認。	水平: [ ] 鉛直: [ ] ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること
		盤内の器具 [ ]	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [ ] の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [ ] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [ ] における加振試験を行い、機能が維持されていることを確認。	水平: [ ] 鉛直: [ ] ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位	要求機能	加振方向	試験内容	機能確認済加速度 ( $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ )	判定基準
		盤内の器具 [ ]	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [ ] の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [ ] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [ ] における加振試験を行い、機能が維持されていることを確認。	水平： [ ] 鉛直： [ ] ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること
		盤内の器具 [ ]	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [ ] の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [ ] (X 方向), [ ] (Y 方向), [ ] (Z 方向) であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [ ] (X 方向), [ ] (Y 方向), [ ] (Z 方向) における加振試験を行い、機能が維持されていることを確認。	水平： [ ] 鉛直： [ ] ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位	要求機能	加振方向	試験内容	機能確認済加速度 ( $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ )	判定基準
		盤内の器具 [ ]	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [ ] の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [ ] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [ ] における加振試験を行い、機能が維持されていることを確認。	水平： [ ] 鉛直： [ ] ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること
		盤内の器具 [ ]	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [ ] の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [ ] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [ ] における加振試験を行い、機能が維持されていることを確認。	水平： [ ] 鉛直： [ ] ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること
格納容器内水素モニタ盤	V-2-6-7-4 (16)	盤内の器具 [ ]	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [ ] の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [ ] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [ ] における加振試験を行い、機能が維持されていることを確認。	水平： [ ] 鉛直： [ ] ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位	要求機能	加振方向	試験内容	機能確認済加速度 ( $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ )	判定基準
		盤内の器具 [ ]	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験 [ ] の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [ ] (X 方向), [ ] (Y, Z 方向) であることを確認。</p> <p>2. 正弦波加振試験 [ ] (X 方向), [ ] (Y, Z 方向) における加振試験を行い、機能が維持されていることを確認。</p>	水平: [ ] 鉛直: [ ] ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること
事故時放射線モニタ盤 (H11-P609-1)	V-2-6-7-4 (17)	盤内の器具 [ ]	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験 [ ] の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [ ] であることを確認。</p> <p>2. 正弦波加振試験 [ ] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。</p>	水平: [ ] 鉛直: [ ] ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること
		盤内の器具 [ ]	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験 [ ] の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [ ] であることを確認。</p> <p>2. サインビート波加振試験 [ ] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。</p>	水平: [ ] 鉛直: [ ] ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位	要求機能	加振方向	試験内容	機能確認済加速度 ( $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ )	判定基準
		盤内の器具 [ ]	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [ ] の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [ ] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [ ] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： [ ] 鉛直： [ ] ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること
事故時放射線モニタ盤 (H11-P609-2)	V-2-6-7-4 (17)	盤内の器具 [ ]	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [ ] の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [ ] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [ ] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： [ ] 鉛直： [ ] ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること
		盤内の器具 [ ]	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [ ] の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [ ] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [ ] における加振試験を行い、機能が維持されていることを確認。	水平： [ ] 鉛直： [ ] ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位	要求機能	加振方向	試験内容	機能確認済加速度 ( $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ )	判定基準
使用済燃料貯蔵プール監視カメラ 制御架	V-2-6-7-4 (18)	盤内の器具 [ ]	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [ ] の周波数領域を含む正弦波を入 力し、応答波形から共振点が [ ] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [ ] における加振試験を行い、機能が 維持されていることを確認。	水平： [ ] 鉛直： [ ]	加振後に正常 に動作するこ と
		盤内の器具 [ ]	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [ ] の周波数領域を含む正弦波を入 力し、応答波形から共振点が [ ] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [ ] における加振試験を行い、機能が 維持されていることを確認。	水平： [ ] 鉛直： [ ]	加振後に正常 に動作するこ と
データ伝送装置	V-2-6-7-5 (1)	盤内の器具 [ ]	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [ ] の周波数領域を含む正弦波を入 力し、応答波形から共振点が [ ] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [ ] における加振試験を行い、機能が 維持されていることを確認。	水平： [ ] 鉛直： [ ] ※下線部が工認記 載値	加振後に正常 に動作するこ と

設備	記載箇所	評価部位	要求機能	加振方向	試験内容	機能確認済加速度 ( $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ )	判定基準
		盤内の器具 	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験 の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点がであることを確認。</p> <p>2. サインビート波加振試験 における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。</p>	水平：  鉛直：  ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること
		盤内の器具 	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験 の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点がであることを確認。</p> <p>2. サインビート波加振試験 における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。</p>	水平：  鉛直：  ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること
		盤内の器具 	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験 の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点がであることを確認。</p> <p>2. サインビート波加振試験  (X, Z 方向),  (Y 方向), における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。</p>	水平：  鉛直：  ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位	要求機能	加振方向	試験内容	機能確認済加速度 ( $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ )	判定基準
安全パラメータ表示システム (SPDS) (6,7号機共用) ・緊急時対策支援システム伝送装置	V-2-6-7-6 (1)	盤内の器具 <input type="text"/>	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験 <input type="text"/> の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が <input type="text"/> (Y 方向), <input type="text"/> (X 方向), <input type="text"/> (Z 方向) であることを確認。</p> <p>2. 正弦波加振試験 <input type="text"/> (Y 方向), <input type="text"/> (X 方向), <input type="text"/> (Z 方向) における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。</p>	水平: <input type="text"/> 鉛直: <input type="text"/>	加振後に正常に動作すること
		盤内の器具 <input type="text"/>	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験 <input type="text"/> の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が <input type="text"/> (X, Y 方向), <input type="text"/> (Z 方向) であることを確認。</p> <p>2. 正弦波加振試験 <input type="text"/> (X, Y 方向), <input type="text"/> (Z 方向) における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。</p>	水平: <input type="text"/> 鉛直: <input type="text"/>	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位	要求機能	加振方向	試験内容	機能確認済加速度 ( $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ )	判定基準
		盤内の器具 [ ]	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験 [ ]の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [ ] (X, Y 方向), [ ] (Z 方向) であることを確認。</p> <p>2. 正弦波加振試験 [ ] (X, Y 方向), [ ] (Z 方向) における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。</p>	水平: [ ] 鉛直: [ ]	加振後に正常に動作すること
		盤内の器具 [ ]	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験 [ ]の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [ ] (X, Y 方向), [ ] (Z 方向) であることを確認。</p> <p>2. 正弦波加振試験 [ ] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。</p>	水平: [ ] 鉛直: [ ]	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位	要求機能	加振方向	試験内容	機能確認済加速度 ( $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ )	判定基準
安全パラメータ表示システム (SPDS) (6,7号機共用) ・SPDS表示装置	V-2-6-7-6 (2)	盤内の器具 [ ]	地震後の電气的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験 [ ]の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [ ] (Y 方向), [ ] (X 方向), [ ] (Z 方向) 以上であることを確認。</p> <p>2. 正弦波加振試験 [ ] (X, Y 方向), [ ] (Z 方向) における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。</p>	水平: [ ] 鉛直: [ ]	加振後に正常 に動作するこ と
		盤内の器具 [ ]	地震後の電气的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験 [ ]の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [ ] (Y 方向), [ ] (X 方向), [ ] (Z 方向) 以上であることを確認。</p> <p>2. 正弦波加振試験 [ ] (Y 方向), [ ] (X, Z 方向) における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。</p>	水平: [ ] 鉛直: [ ]	加振後に正常 に動作するこ と

設備	記載箇所	評価部位	要求機能	加振方向	試験内容	機能確認済加速度 ( $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ )	判定基準
安全パラメータ表示システム (SPDS) (6,7号機共用) ・メッシュ型アンテナ1,2	V-2-6-7-6 (3)	メッシュ型アンテナ (アンテナ取付架台との取合部を含む)	地震後の電氣的機能維持	水平単独2方向及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5~33Hzの周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が32.88Hz(X方向), 32.73Hz(Y方向), 33Hz以上(Z方向)であることを確認。 2. サインビート波加振試験 32.88Hz(X方向), 32.73Hz(Y方向), 33Hz(Z方向)における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平: 3.96 鉛直: 2.32	加振後に正常に動作すること
安全パラメータ表示システム (SPDS) (6,7号機共用) ・通信収容架1	V-2-6-7-6 (4)	盤内の器具 ・L2スイッチ装置① ・L2スイッチ装置② ・ファイアウォール装置 ・配線用遮断器	地震後の電氣的機能維持	水平単独2方向及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5~33Hzの周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が33Hz以上であることを確認。 2. サインビート加振試験 33Hzにおける加振試験を行い、機能が維持されていることを確認。	水平: 5.12 鉛直: 2.31 ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位	要求機能	加振方向	試験内容	機能確認済加速度 ( $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ )	判定基準
		盤内の器具 ・メディアコン バータ	地震後の電氣的 機能維持	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5~33Hz の周波数領域を含む正弦波を入 力し、応答波形から共振点が 33Hz 以上で あることを確認。 2. サインビート波加振試験 33Hz における加振試験を行い、機能が維 持されることを確認。	水平：3.17 鉛直：3.11 ※下線部が工認記 載値	加振後に正常 に動作するこ と
安全パラメータ表示システム (SPDS) (6,7号機共用) ・通信収容架 2	V-2-6-7-6 (4)	盤内の器具 ・ファイアウォ ール装置 ・L 2 スイッチ 装置	地震後の電氣的 機能維持	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5~33Hz の周波数領域を含む正弦波を入 力し、応答波形から共振点が 33Hz 以上で あることを確認。 2. サインビート波加振試験 33Hz における加振試験を行い、機能が維 持されることを確認。	水平：5.12 鉛直：2.31 ※下線部が工認記 載値	加振後に正常 に動作するこ と
		盤内の器具 ・メディアコン バータ	地震後の電氣的 機能維持	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5~33Hz の周波数領域を含む正弦波を入 力し、応答波形から共振点が 33Hz 以上で あることを確認。 2. サインビート波加振試験 33Hz における加振試験を行い、機能が維 持されることを確認。	水平：3.17 鉛直：3.11 ※下線部が工認記 載値	加振後に正常 に動作するこ と

設備	記載箇所	評価部位	要求機能	加振方向	試験内容	機能確認済加速度 ( $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ )	判定基準
データ伝送設備	V-2-6-7-7	盤内の器具 [ ]	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験 [ ] の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [ ] (Y 方向), [ ] (X 方向), [ ] (Z 方向) であることを確認。</p> <p>2. 正弦波加振試験 [ ] (Y 方向), [ ] (X 方向), [ ] (Z 方向) における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。</p>	水平: [ ] 鉛直: [ ]	加振後に正常に動作すること
		盤内の器具 [ ]	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験 [ ] の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [ ] (X, Y 方向), [ ] (Z 方向) であることを確認。</p> <p>2. 正弦波加振試験 [ ] (X, Y 方向), [ ] (Z 方向) における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。</p>	水平: [ ] 鉛直: [ ]	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位	要求機能	加振方向	試験内容	機能確認済加速度 ( $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ )	判定基準
		盤内の器具 [ ]	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験 [ ]の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [ ] (X, Y 方向), [ ] (Z 方向)であることを確認。</p> <p>2. 正弦波加振試験 [ ] (X, Y 方向), [ ] (Z 方向)における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。</p>	水平: [ ] 鉛直: [ ]	加振後に正常に動作すること
		盤内の器具 [ ]	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験 [ ]の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [ ] (X, Y 方向), [ ] (Z 方向)であることを確認。</p> <p>2. 正弦波加振試験 [ ]における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。</p>	水平: [ ] 鉛直: [ ]	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位	要求機能	加振方向	試験内容	機能確認済加速度 ( $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ )	判定基準
データ表示装置 (中央制御室待避室)	V-2-6-7-8	盤内の器具 [ ]	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験 [ ]の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [ ] (Y 方向), [ ] (X 方向), [ ] (Z 方向) 以上であることを確認。</p> <p>2. 正弦波加振試験 [ ] (X, Y 方向), [ ] (Z 方向) における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。</p>	水平: [ ] 鉛直: [ ]	加振後に正常に動作すること
		盤内の器具 [ ]	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験 [ ]の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [ ] (Y 方向), [ ] (X 方向), [ ] (Z 方向) 以上であることを確認。</p> <p>2. 正弦波加振試験 [ ] (Y 方向), [ ] (X, Z 方向) における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。</p>	水平: [ ] 鉛直: [ ]	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位	要求機能	加振方向	試験内容	機能確認済加速度 ( $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ )	判定基準
衛星電話設備 (常設) ・アンテナ	V-2-6-7-9 (1)	アンテナ (アンテナ取付 架台との取合部 を含む)	地震後の電氣的 機能維持	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5~33Hz の周波数領域を含む正弦波を入 力し, 応答波形から共振点が 33Hz 以上で あることを確認。 2. サインビート波加振試験 17.02Hz, 33Hz における加振試験を行い, 機能が維持されることを確認。	水平 : 4.35 鉛直 : 2.24	加振後に正常 に動作するこ と
衛星電話設備 (常設) ・通信収容架 1	V-2-6-7-9 (2)	盤内の器具 ・衛星電話端末	地震後の電氣的 機能維持	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5~33Hz の周波数領域を含む正弦波を入 力し, 応答波形から共振点が 33Hz 以上で あることを確認。 2. サインビート波加振試験 33Hz における加振試験を行い, 機能が維 持されることを確認。	水平 : 3.58 鉛直 : 2.12	加振後に正常 に動作するこ と
衛星電話設備 (常設) ・通信収容架 2	V-2-6-7-9 (2)	盤内の器具 ・アナログ電話 機	地震後の電氣的 機能維持	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5~33Hz の周波数領域を含む正弦波を入 力し, 応答波形から共振点が 33Hz 以上で あることを確認。 2. サインビート波加振試験 20Hz における加振試験を行い, 機能が維 持されることを確認。	水平 : 3.58 鉛直 : 2.19	加振後に正常 に動作するこ と

設備	記載箇所	評価部位	要求機能	加振方向	試験内容	機能確認済加速度 ( $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ )	判定基準
衛星電話設備（常設）（中央制御室待避室） ・アンテナ	V-2-6-7-10 (1)	アンテナ (アンテナ取付架台との取合部を含む)	地震後の電氣的機能維持	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5～33Hz の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が 33Hz 以上であることを確認。 2. サインビート波加振試験 17.02Hz, 33Hz における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：4.35 鉛直：2.24	加振後に正常に動作すること
衛星電話設備（常設）（中央制御室待避室） ・通信収容架	V-2-6-7-10 (2)	盤内の器具 ・衛星電話端末	地震後の電氣的機能維持	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5～33Hz の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が 33Hz 以上であることを確認。 2. サインビート波加振試験 33Hz における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：3.58 鉛直：2.12	加振後に正常に動作すること
衛星電話設備（常設）（6,7 号機共用） ・アンテナ	V-2-6-7-11 (1)	アンテナ (アンテナ取付架台との取合部を含む)	地震後の電氣的機能維持	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5～33Hz の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が 33Hz 以上であることを確認。 2. サインビート波加振試験 11.21Hz, 11.63Hz, 22.37Hz における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：4.38 鉛直：2.16	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位	要求機能	加振方向	試験内容	機能確認済加速度 ( $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ )	判定基準
衛星電話設備 (常設) (6, 7 号機共用) ・通信収容架	V-2-6-7-11 (2)	盤内の器具 ・衛星電話端末	地震後の電氣的機能維持	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5~33Hz の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が 33Hz 以上であることを確認。 2. サインビート波加振試験 33Hz における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平 : 3.58 鉛直 : 2.12	加振後に正常に動作すること
無線連絡設備 (常設) ・アンテナ	V-2-6-7-12 (1)	アンテナ (アンテナ取付架台との取合部を含む)	地震後の電氣的機能維持	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5~33Hz の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が 23.76Hz (X 方向), 23.65Hz (Y 方向), 33Hz 以上 (Z 方向) であることを確認。 2. サインビート波加振試験 23.76Hz (X 方向), 23.65Hz (Y 方向), 33Hz (Z 方向) における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平 : 3.54 鉛直 : 2.15	加振後に正常に動作すること
無線連絡設備 (常設) ・通信収容架 1	V-2-6-7-12 (2)	盤内の器具 ・デジタル簡易無線機	地震後の電氣的機能維持	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5~33Hz の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が 33Hz 以上であることを確認。 2. サインビート波加振試験 33Hz における加振試験を行い、機能が維持されていることを確認。	水平 : 3.63 鉛直 : 2.14	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位	要求機能	加振方向	試験内容	機能確認済加速度 ( $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ )	判定基準
無線連絡設備 (常設) ・通信収容架 2	V-2-6-7-12 (2)	盤内の器具 ・ハンドマイク	地震後の電氣的 機能維持	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5~33Hz の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が 33Hz 以上であることを確認。 2. サインビート加振試験 20Hz における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平 : 3.58 鉛直 : 2.19	加振後に正常 に動作すること
無線連絡設備 (常設) (中央制御室 待避室) ・アンテナ	V-2-6-7-13 (1)	アンテナ (アンテナ取付 架台との取合部 を含む)	地震後の電氣的 機能維持	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5~33Hz の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が 23.76Hz (X 方向), 23.65Hz (Y 方向), 33Hz 以上 (Z 方 向) であることを確認。 2. サインビート加振試験 23.76Hz (X 方向), 23.65Hz (Y 方向), 33Hz (Z 方向) における加振試験を行い、 機能が維持されることを確認。	水平 : 3.54 鉛直 : 2.15	加振後に正常 に動作すること
無線連絡設備 (常設) (中央制御室 待避室) ・通信収容架	V-2-6-7-13 (2)	盤内の器具 ・デジタル簡易 無線機	地震後の電氣的 機能維持	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5~33Hz の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が 33Hz 以上であることを確認。 2. サインビート加振試験 33Hz における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平 : 3.63 鉛直 : 2.14 ※下線部が工認記 載値	加振後に正常 に動作すること

設備	記載箇所	評価部位	要求機能	加振方向	試験内容	機能確認済加速度 ( $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ )	判定基準
		盤内の器具 ・ハンドマイク	地震後の電氣的 機能維持	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5~33Hz の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が 33Hz 以上であることを確認。 2. サインビート加振試験 33Hz における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：3.67 鉛直：2.14 ※下線部が工認記載値	加振後に正常 に動作すること
無線連絡設備（常設）通信収容架 （6,7号機共用） ・アンテナ	V-2-6-7-14 (1)	アンテナ （アンテナ取付 架台との取合部 を含む）	地震後の電氣的 機能維持	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5~33Hz の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が 33Hz 以上であることを確認。 2. サインビート波加振試験 33Hz における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：4.20 鉛直：2.07	加振後に正常 に動作すること
無線連絡設備（常設）通信収容架 （6,7号機共用） ・通信収容架	V-2-6-7-14 (2)	盤内の器具 ・デジタル簡易 無線機	地震後の電氣的 機能維持	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5~33Hz の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が 33Hz 以上であることを確認。 2. サインビート波加振試験 33Hz における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：3.63 鉛直：2.14 ※下線部が工認記載値	加振後に正常 に動作すること

設備	記載箇所	評価部位	要求機能	加振方向	試験内容	機能確認済加速度 ( $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ )	判定基準
		盤内の器具 ・ハンドマイク	地震後の電氣的 機能維持	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5～33Hz の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が 33Hz 以上であることを確認。 2. サインビート加振試験 33Hz における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：4.08 鉛直：2.14 ※下線部が工認記載値	加振後に正常 に動作すること
統合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備（テレビ会議システム、IP-電話機及び IP-FAX） ・衛星無線通信装置用アンテナ	V-2-6-7-15 (1)	ODU	地震後の電氣的 機能維持	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5～33Hz の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が 33Hz 以上であることを確認。 2. サインビート波加振試験 33Hz における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：8.02 鉛直：9.95	加振後に正常 に動作すること
統合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備（テレビ会議システム、IP-電話機及び IP-FAX） ・テレビ会議システム用ディスプレイ	V-2-6-7-15 (2)	テレビ会議システム用ディスプレイ	地震後の電氣的 機能維持	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5～33Hz の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が 33Hz 以上であることを確認。 2. サインビート波加振試験 33Hz における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：4.74 鉛直：2.77	加振後に正常 に動作すること

設備	記載箇所	評価部位	要求機能	加振方向	試験内容	機能確認済加速度 ( $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ )	判定基準
統合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備（テレビ会議システム、IP-電話機及びIP-FAX） ・テレビ会議システム用カメラ	V-2-6-7-15 (3)	テレビ会議システム用カメラ	地震後の電氣的機能維持	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5～33Hz の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が 33Hz 以上であることを確認。 2. サインビート波加振試験 33Hz における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：4.64 鉛直：2.16	加振後に正常に動作すること
統合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備（テレビ会議システム、IP-電話機及びIP-FAX） ・通信収容架 A	V-2-6-7-15 (4)	盤内の器具 ・ V O I P - G W	地震後の電氣的機能維持	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5～33Hz の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が 33Hz 以上であることを確認。 2. サインビート波加振試験 33Hz における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：3.04 鉛直：2.07 ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること
		盤内の器具 ・合成分配器	地震後の電氣的機能維持	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5～33Hz の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が 33Hz 以上であることを確認。 2. サインビート加振試験 33Hz における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：3.04 鉛直：2.06 ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位	要求機能	加振方向	試験内容	機能確認済加速度 ( $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ )	判定基準
		盤内の器具 ・ I P M O D E M ・ C S C M O D E M	地震後の電氣的 機能維持	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5~33Hz の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が 33Hz 以上であることを確認。 2. サインビート波加振試験 33Hz における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：3.04 鉛直：2.05 ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること
		盤内の器具 ・ L 3 スイッチ 装置	地震後の電氣的 機能維持	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5~33Hz の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が 33Hz 以上であることを確認。 2. サインビート波加振試験 33Hz における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：3.05 鉛直：2.03 ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること
統合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備（テレビ会議システム、IP-電話機及び IP-FAX） ・ 通信収容架 B	V-2-6-7-15 (4)	盤内の器具 ・ L 3 スイッチ 装置	地震後の電氣的 機能維持	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5~33Hz の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が 33Hz 以上であることを確認。 2. サインビート波加振試験 33Hz における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：3.05 鉛直：2.03	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位	要求機能	加振方向	試験内容	機能確認済加速度 ( $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ )	判定基準
統合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備（テレビ会議システム、IP-電話機及びIP-FAX） ・通信端末収容台①	V-2-6-7-15 (5)	IP-FAX	地震後の電氣的機能維持	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5～33Hz の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が 12.6Hz (X 方向), 15.4Hz (Y 方向), 33Hz 以上 (Z 方向) であることを確認。 2. サインビート波加振試験 12.6Hz (X 方向), 15.4Hz (Y 方向), 33Hz (Z 方向) における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：3.01 鉛直：2.31 ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること
		盤内の器具 ・アナログ電話機	地震後の電氣的機能維持	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5～33Hz の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が 33Hz 以上であることを確認。 2. サインビート波加振試験 33Hz における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：3.05 鉛直：2.10 ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること
		盤内の器具 ・テレビ会議端末	地震後の電氣的機能維持	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5～33Hz の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が 33Hz 以上であることを確認。 2. サインビート波加振試験 33Hz における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：3.07 鉛直：2.10 ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位	要求機能	加振方向	試験内容	機能確認済加速度 ( $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ )	判定基準
統合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備 (テレビ会議システム, IP-電話機及び IP-FAX) ・通信端末収容台②	V-2-6-7-15 (5)	IP-FAX	地震後の電氣的機能維持	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5~33Hz の周波数領域を含む正弦波を入力し, 応答波形から共振点が 12.6Hz (X 方向), 15.4Hz (Y 方向), 33Hz 以上 (Z 方向) であることを確認。 2. サインビート加振試験 12.6Hz (X 方向), 15.4Hz (Y 方向), 33Hz (Z 方向) における加振試験を行い, 機能が維持されることを確認。	水平 : 3.01 鉛直 : 2.31	加振後に正常に動作すること
TSC屋外緊急連絡用インターフォン	V-2-6-7-16	TSC屋外緊急連絡用インターフォン	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □ の周波数領域を含む正弦波を入力し, 応答波形から共振点が □ であることを確認。 2. サインビート波加振試験 □ における加振試験を行い, 機能が維持されることを確認。	水平 : □ 鉛直 : □	加振後に正常に動作すること
5号機TSC屋外緊急連絡用インターフォン子機	V-2-6-7-16	5号機TSC屋外緊急連絡用インターフォン子機	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □ の周波数領域を含む正弦波を入力し, 応答波形から共振点が □ であることを確認。 2. サインビート波加振試験 □ における加振試験を行い, 機能が維持されることを確認。	水平 : □ 鉛直 : □	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位	要求機能	加振方向	試験内容	機能確認済加速度 ( $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ )	判定基準
原子炉圧力容器温度	V-2-6-7-17	熱電対	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験  <math>\square</math> の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が <math>\square</math> であることを確認。</p> <p>2. 正弦波加振試験  <math>\square</math> における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。</p>	水平: $\square$ 鉛直: $\square$	加振後に正常に動作すること
フィルタ装置水位	V-2-6-7-18	差圧式水位検出器	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験  <math>\square</math> の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が <math>\square</math> であることを確認。</p> <p>2. 正弦波加振試験  <math>\square</math> における加振試験を行い、機能が維持されていることを確認。</p>	水平: $\square$ 鉛直: $\square$	加振後に正常に動作すること
フィルタ装置入口圧力	V-2-6-7-19	弾性圧力検出器	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験  <math>\square</math> の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が <math>\square</math> であることを確認。</p> <p>2. 正弦波加振試験  <math>\square</math> における加振試験を行い、機能が維持されていることを確認。</p>	水平: $\square$ 鉛直: $\square$	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位	要求機能	加振方向	試験内容	機能確認済加速度 ( $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ )	判定基準
フィルタ装置水素濃度	V-2-6-7-20	熱伝導式水素検出器	地震後の電气的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験  <input type="text"/>の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が<input type="text"/>であることを確認。</p> <p>2. サインビート波加振試験  <input type="text"/>における加振試験を行い、機能が維持されることを確認</p>	水平 : <input type="text"/> 鉛直 : <input type="text"/>	加振後に正常に動作すること
フィルタ装置金属フィルタ差圧	V-2-6-7-21	弾性圧力検出器	地震後の電气的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験  <input type="text"/>の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が<input type="text"/>であることを確認。</p> <p>2. 正弦波加振試験  <input type="text"/>における加振試験を行い、機能が維持されていることを確認。</p>	水平 : <input type="text"/> 鉛直 : <input type="text"/>	加振後に正常に動作すること
フィルタ装置スクラバ水 pH	V-2-6-7-22	pH 検出器	地震後の電气的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験  <input type="text"/>の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が<input type="text"/>であることを確認。</p> <p>2. サインビート波加振試験  <input type="text"/>における加振試験を行い、機能が維持されることを確認</p>	水平 : <input type="text"/> 鉛直 : <input type="text"/>	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位	要求機能	加振方向	試験内容	機能確認済加速度 ( $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ )	判定基準
原子炉補機冷却水系統流量	V-2-6-7-23	差圧式流量検出器	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験  <math>\square</math> の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が <math>\square</math> であることを確認。</p> <p>2. 正弦波加振試験  <math>\square</math> における加振試験を行い、機能が維持されていることを確認。</p>	水平: $\square$ 鉛直: $\square$	加振後に正常に動作すること
残留熱除去系熱交換器入口冷却水流量	V-2-6-7-24	差圧式流量検出器	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験  <math>\square</math> の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が <math>\square</math> であることを確認。</p> <p>2. 正弦波加振試験  <math>\square</math> における加振試験を行い、機能が維持されていることを確認。</p>	水平: $\square$ 鉛直: $\square$	加振後に正常に動作すること
復水移送ポンプ吐出圧力	V-2-6-7-25	弾性圧力検出器	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験  <math>\square</math> の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が <math>\square</math> であることを確認。</p> <p>2. 正弦波加振試験  <math>\square</math> における加振試験を行い、機能が維持されていることを確認。</p>	水平: $\square$ 鉛直: $\square$	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位	要求機能	加振方向	試験内容	機能確認済加速度 ( $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ )	判定基準
静的触媒式水素再結合器 動作監視装置	V-2-6-7-26	熱電対	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [ ] の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [ ] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [ ] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平 : [ ] 鉛直 : [ ]	加振後に正常に動作すること
格納容器内ガスサンプリングポンプ	V-2-6-7-27	サンプリングポンプ	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [ ] の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [ ] であることを確認。 2. サインビート波加振試験 [ ] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認	水平 : [ ] 鉛直 : [ ]	加振後に正常に動作すること
主蒸気管放射線モニタ	V-2-8-1(1)	電離箱	地震時及び地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [ ] の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [ ] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [ ] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平 : [ ] 鉛直 : [ ]	加振時及び加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位	要求機能	加振方向	試験内容	機能確認済加速度 ( $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ )	判定基準
燃料取替エリア排気放射線モニタ	V-2-8-1(2)	半導体式	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [ ] の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [ ] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [ ] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平 : [ ] 鉛直 : [ ]	加振後に正常に動作すること
原子炉区域換気空調系排気放射線モニタ	V-2-8-1(3)	半導体式	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [ ] の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [ ] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [ ] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平 : [ ] 鉛直 : [ ]	加振後に正常に動作すること
格納容器内雰囲気放射線モニタ (D/W)	V-2-8-2-1 -1	電離箱	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [ ] の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [ ] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [ ] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平 : [ ] 鉛直 : [ ]	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位	要求機能	加振方向	試験内容	機能確認済加速度 ( $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ )	判定基準
格納容器内雰囲気放射線モニタ (S/C)	V-2-8-2-1 -2	電離箱	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [ ] の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [ ] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [ ] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平 : [ ] 鉛直 : [ ]	加振後に正常に動作すること
フィルタ装置出口放射線モニタ	V-2-8-2-1 -3	電離箱	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [ ] の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [ ] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [ ] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平 : [ ] 鉛直 : [ ]	加振後に正常に動作すること
耐圧強化ベント系放射線モニタ	V-2-8-2-1 -4	電離箱	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [ ] の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [ ] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [ ] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平 : [ ] 鉛直 : [ ]	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位	要求機能	加振方向	試験内容	機能確認済加速度 ( $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ )	判定基準
使用済燃料貯蔵プール放射線モニタ (低レンジ)	V-2-8-2-2 -1	電離箱	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験  <input type="text"/>の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が<input type="text"/>であることを確認。</p> <p>2. 正弦波加振試験  <input type="text"/>における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。</p>	水平: <input type="text"/> 鉛直: <input type="text"/>	加振後に正常に動作すること
使用済燃料貯蔵プール放射線モニタ (高レンジ)	V-2-8-2-2 -2	電離箱	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験  <input type="text"/>の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が<input type="text"/>であることを確認。</p> <p>2. 正弦波加振試験  <input type="text"/>における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。</p>	水平: <input type="text"/> 鉛直: <input type="text"/>	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位	要求機能	加振方向	試験内容	機能確認済加速度 ( $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ )	判定基準
遠隔手動弁操作設備	V-2-9-5-3	マイタギヤボックス	地震後の動的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験  <input type="text"/>の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が<input type="text"/>であることを確認。</p> <p>2. 正弦波加振試験  <input type="text"/>における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。</p>	水平： <input type="text"/> 鉛直： <input type="text"/>	加振後に正常に動作すること
		ヘリカルパワードライブ	地震後の動的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験  <input type="text"/>の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が<input type="text"/>であることを確認。</p> <p>2. 正弦波加振試験  <input type="text"/>における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。</p>	水平： <input type="text"/> 鉛直： <input type="text"/>	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位	要求機能	加振方向	試験内容	機能確認済加速度 ( $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ )	判定基準
		等速ジョイント (伸縮機構無し)	地震後の動的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験  <input type="text"/> の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が <input type="text"/> (Y 方向), <input type="text"/> (Z 方向), <input type="text"/> (X 方向) であることを確認。</p> <p>2. ランダム波加振試験  基準地震動における設計用床応答曲線を上回るように設定したランダム波での加振試験を行い、機能が維持されることを確認。</p>	水平: <input type="text"/> 鉛直: <input type="text"/>	加振後に正常に動作すること
		等速ジョイント (伸縮機構有り)	地震後の動的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験  <input type="text"/> の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が <input type="text"/> であることを確認。</p> <p>2. 正弦波加振試験  <input type="text"/> における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。</p>	水平: <input type="text"/> 鉛直: <input type="text"/>	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位	要求機能	加振方向	試験内容	機能確認済加速度 ( $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ )	判定基準
バイタル交流電源装置	V-2-10-1-1	盤内の器具 [ ]	地震時及び地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [ ] の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [ ] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [ ] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平: [ ] 鉛直: [ ]	加振中及び加振後に正常に動作すること
非常用ディーゼル発電機制御盤 (1)	V-2-10-1-2 -1-8	盤内の器具 [ ]	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. メーカー試験 (カタログ値) により、機能が維持されることを確認。	水平: [ ] 鉛直: [ ] ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること
		盤内の器具 [ ]	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [ ] の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [ ] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [ ] [ ] (X, Y 方向), [ ] (Z 方向) における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平: [ ] 鉛直: [ ] ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること
AM 用直流 125V 充電器	V-2-10-1-3 -1	盤内の器具 [ ]	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. メーカー試験 (カタログ値) により、機能が維持されることを確認。	水平: [ ] 鉛直: [ ]	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位	要求機能	加振方向	試験内容	機能確認済加速度 ( $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ )	判定基準
AM 用動力変圧器	V-2-10-1-4 -4	盤内の器具 <input type="text"/>	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 <input type="text"/> の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が <input type="text"/> であることを確認。 2. 正弦波加振試験 <input type="text"/> における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： <input type="text"/> 鉛直： <input type="text"/>	加振後に正常に動作すること
AM 用 MCC	V-2-10-1-4 -5	盤内の器具 <input type="text"/>	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 <input type="text"/> の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が <input type="text"/> であることを確認。 2. 正弦波加振試験 <input type="text"/> における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： <input type="text"/> 鉛直： <input type="text"/> ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること
		盤内の器具 <input type="text"/>	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 <input type="text"/> の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が <input type="text"/> であることを確認。 2. 正弦波加振試験 <input type="text"/> における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： <input type="text"/> 鉛直： <input type="text"/> ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位	要求機能	加振方向	試験内容	機能確認済加速度 ( $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ )	判定基準
AM 用切替盤	V-2-10-1-4 -6	盤内の器具 [ ]	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [ ] の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [ ] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [ ] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： [ ] 鉛直： [ ]	加振後に正常に動作すること
AM 用操作盤 (7A)	V-2-10-1-4 -7	盤内の器具 [ ]	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [ ] の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [ ] であることを確認。 2. サインビート波加振試験 [ ] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： [ ] 鉛直： [ ] ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること
		盤内の器具 [ ]	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [ ] の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [ ] であることを確認。 2. サインビート波加振試験 [ ] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： [ ] 鉛直： [ ] ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位	要求機能	加振方向	試験内容	機能確認済加速度 ( $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ )	判定基準
AM 用操作盤 (7B, 7C)	V-2-10-1-4 -7	盤内の器具 [ ]	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [ ] の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [ ] であることを確認。 2. サインビート波加振試験 [ ] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平 : [ ] 鉛直 : [ ]	加振後に正常に動作すること
メタルクラッド開閉装置	V-2-10-1-4 -8	盤内の器具(盤 1 面に実装し加振 試験を実施) [ ]	地震時及び地震 後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [ ] の周波数領域を含むランダム波を入力し、応答波形から共振点が [ ] (X 方向), [ ] (Y, Z 方向) であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [ ] (X 方向), [ ] (Y, Z 方向) における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平 : [ ] 鉛直 : [ ]	加振中及び加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位	要求機能	加振方向	試験内容	機能確認済加速度 ( $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ )	判定基準
パワーセンタ (7C-1, 7D-1, 7E-1)	V-2-10-1-4 -9	盤内の器具(盤1 面に実装し加振 試験を実施) <input type="text"/>	地震時及び地震 後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 <input type="text"/> の周波数領域を含むランダム波 を入力し、応答波形から共振点が <input type="text"/> (X方向), <input type="text"/> (Y, Z方向) である ことを確認。 2. サインビート波加振試験 <input type="text"/> における加振試験を行い、機能が維 持されることを確認。	水平: <input type="text"/> 鉛直: <input type="text"/>	加振中及び加 振後に正常に 動作すること
パワーセンタ (7C-2, 7D-2, 7E-2)	V-2-10-1-4 -9	盤内の器具(盤1 面に実装し加振 試験を実施) <input type="text"/>	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 <input type="text"/> の周波数領域を含むランダム波 を入力し、応答波形から共振点が <input type="text"/> (X方向), <input type="text"/> (Y, Z方向) である ことを確認。 2. サインビート波加振試験 <input type="text"/> における加振試験を行い、機能が維 持されることを確認。	水平: <input type="text"/> 鉛直: <input type="text"/>	加振後に正常 に動作するこ と
モータコントロールセンタ (7C-1-1, 7C-1-6, 7C-1-7, 7D-1-1, 7D-1-6, 7D-1-7, 7E-1-1A, 7E-1-3)	V-2-10-1-4 -10	盤内の器具 <input type="text"/>	地震時及び地震 後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 <input type="text"/> の周波数領域を含む正弦波を入 力し、応答波形から共振点が <input type="text"/> で あることを確認。 2. 正弦波加振試験 <input type="text"/> における加振試験を行い、機能が維 持されることを確認。	水平: <input type="text"/> 鉛直: <input type="text"/>	加振中及び加 振後に正常に 動作すること

設備	記載箇所	評価部位	要求機能	加振方向	試験内容	機能確認済加速度 ( $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ )	判定基準
モータコントロールセンタ (7C-1-2, 7C-1-3, 7C-1-4, 7D-1-2, 7D-1-3, 7D-1-4, 7E-1-1B, 7E-1-2)	V-2-10-1-4 -10	盤内の器具 	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験  の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が  であることを確認。 2. 正弦波加振試験  における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：  鉛直： 	加振後に正常 に動作すること
モータコントロールセンタ (7C-2-1, 7D-2-1, 7E-2-1)	V-2-10-1-4 -10	盤内の器具 ・電磁接触器	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 4~33Hz の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が 33Hz 以上であることを確認。 2. 正弦波加振試験 4, 6, 8, 10, 12, 14, 16, 18, 20, 22, 24, 26, 28, 30, 32, 33Hz における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：  鉛直：  ※下線部が工認記載値	加振後に正常 に動作すること
		盤内の器具 ・配線用遮断器 ・過負荷リレー	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 4~33Hz の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が 33Hz 以上であることを確認。 2. 正弦波加振試験 4, 6, 8, 10, 12, 14, 16, 18, 20, 22, 24, 26, 28, 30, 32, 33Hz における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：  鉛直：  ※下線部が工認記載値	加振後に正常 に動作すること

設備	記載箇所	評価部位	要求機能	加振方向	試験内容	機能確認済加速度 ( $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ )	判定基準
		盤内の器具 ・補助リレー	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 4~33Hz の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が 33Hz 以上であることを確認。 2. 正弦波加振試験 4, 6, 8, 10, 12, 14, 16, 18, 20, 22, 24, 26, 28, 30, 32, 33Hz における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： <input type="text"/> 鉛直： <input type="text"/> ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること
5 号機原子炉建屋内緊急時対策所用電源盤	V-2-10-1-4 -12	盤内の器具 <input type="text"/>	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 <input type="text"/> の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が <input type="text"/> であることを確認。 2. 正弦波加振試験 <input type="text"/> における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： <input type="text"/> 鉛直： <input type="text"/>	加振後に正常に動作すること
5 号機原子炉建屋内緊急時対策所用交流 110V 分電盤	V-2-10-1-4 -13	盤内の器具 <input type="text"/>	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 <input type="text"/> の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が <input type="text"/> であることを確認。 2. サインビート波加振試験 <input type="text"/> における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： <input type="text"/> 鉛直： <input type="text"/>	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位	要求機能	加振方向	試験内容	機能確認済加速度 ( $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ )	判定基準
直流 125V 充電器	V-2-10-1-4 -14	盤内の器具 <input type="text"/>	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. メーカー試験 (カタログ値) により, 機能が維持されることを確認	水平: <input type="text"/> 鉛直: <input type="text"/>	加振後に正常 に動作するこ と
直流 125V 主母線盤	V-2-10-1-4 -15	盤内の器具 <input type="text"/>	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 <input type="text"/> の周波数領域を含む正弦波を入力し, 応答波形から共振点が <input type="text"/> であることを確認。 2. サインビート波加振試験 <input type="text"/> における加振試験を行い, 機能が維持されることを確認。	水平: <input type="text"/> 鉛直: <input type="text"/>	加振後に正常 に動作するこ と
125V 同時投入防止用切替盤	V-2-10-1-4 -16	盤内の器具 <input type="text"/>	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 <input type="text"/> の周波数領域を含む正弦波を入力し, 応答波形から共振点が <input type="text"/> であることを確認。 2. サインビート波加振試験 <input type="text"/> における加振試験を行い, 機能が維持されることを確認。	水平: <input type="text"/> 鉛直: <input type="text"/>	加振後に正常 に動作するこ と

設備	記載箇所	評価部位	要求機能	加振方向	試験内容	機能確認済加速度 ( $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ )	判定基準
直流 125V HPAC MCC	V-2-10-1-4 -17	盤内の器具 	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験 の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点がであることを確認。</p> <p>2. 正弦波加振試験 における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。</p>	水平：  鉛直：  ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること
		盤内の器具 	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験 の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点がであることを確認。</p> <p>2. 正弦波加振試験 における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。</p>	水平：  鉛直：  ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位	要求機能	加振方向	試験内容	機能確認済加速度 ( $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ )	判定基準
床ドレンライン浸水防止治具 (フロート式治具)	V-2-10-2-4 -1	フロート, ねじ取 付部	地震後の機能(水 密性能)	水平単独 1 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5~50Hz の周波数領域を含む正弦波を入 力し, 応答波形から共振点が 50Hz 以上で あることを確認。 2. 正弦波加振試験 20Hz における加振試験を行い, 機能が維 持されることを確認。	水平: 6.0 鉛直: 6.0	加振後に水密 性能を維持す ること
床ドレンライン浸水防止治具 (スプリング式治具)	V-2-10-2-4 -1	弁体, ねじ取付部	地震後の機能(水 密性能)	水平単独 1 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5~50Hz の周波数領域を含む正弦波を入 力し, 応答波形から共振点が 50Hz 以上で あることを確認。 2. 正弦波加振試験 20Hz における加振試験を行い, 機能が維 持されることを確認。	水平: 6.0 鉛直: 6.0	加振後に水密 性能を維持す ること
床ドレンライン浸水防止治具 (閉止栓)	V-2-10-2-4 -1	閉止栓	地震後の機能(水 密性能)	水平単独 1 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5~50Hz の周波数領域を含む正弦波を入 力し, 応答波形から共振点が 50Hz 以上で あることを確認。 2. 正弦波加振試験 20Hz における加振試験を行い, 機能が維 持されることを確認。	水平: 6.0 鉛直: 6.0	加振後に水密 性能を維持す ること

設備	記載箇所	評価部位	要求機能	加振方向	試験内容	機能確認済加速度 ( $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ )	判定基準
床ドレンライン浸水防止治具 (閉止キャップ)	V-2-10-2-4 -1	閉止キャップ	地震後の機能(水密性能)	水平単独 1 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5~50Hz の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が 20Hz 以上であることを確認。 2. 正弦波加振試験 20Hz における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平 : 6.0 鉛直 : 6.0	加振後に水密性能を維持すること
取水槽水位・検出器	V-2-10-2-4 -3(1)	差圧式水位検出器	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [ ] の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点応答波形から共振点が [ ] であることを確認。 [ ] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [ ] における加振試験を行い、機能が維持されていることを確認。	水平 : [ ] 鉛直 : [ ]	加振後に正常に動作すること
津波監視カメラ	V-2-10-2-4 -4(1)	赤外線カメラ	地震後の電氣的機能	水平 2 方向と鉛直の 3 方向同時	1. 共振点検索試験 [ ] 周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点応答波形から共振点が [ ] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [ ] における加振試験を行い、機能が維持されていることを確認。	水平 : [ ] 鉛直 : [ ] ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位	要求機能	加振方向	試験内容	機能確認済加速度 ( $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ )	判定基準
津波監視カメラ制御架	V-2-10-2-4 -4(2)	盤内の器具 [ ]	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験 [ ] の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点応答波形から共振点が [ ] であることを確認。</p> <p>2. 正弦波加振試験 [ ] における加振試験を行い、機能が維持されていることを確認。</p>	水平： [ ] 鉛直： [ ] ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること
		盤内の器具 [ ]	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験 [ ] の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [ ] であることを確認。</p> <p>2. 正弦波加振試験 [ ] における加振試験を行い、機能が維持されていることを確認。</p>	水平： [ ] 鉛直： [ ] ※下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位	要求機能	加振方向	試験内容	機能確認済加速度 ( $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ )	判定基準
5号機原子炉建屋内緊急時対策所 (対策本部) 二酸化炭素吸収装置	V-2-10-4-2 -1	5号機原子炉建 屋内緊急時対策 所(対策本部)二 酸化炭素吸収装 置	地震後の電氣的 機能	水平 2 方向と鉛 直の 3 方向同時	<p>1. 共振点検索試験</p> <p>5~33Hz の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が 25.0Hz (X 方向), 27.0Hz (Y 方向), 25.8Hz (Z 方向) であることを確認。</p> <p>2. ランダム波加振試験</p> <p>基準地震動 (Ss-1~Ss-8) における設計用床応答曲線を上回るように設定したランダム波での加振試験を行い、機能が維持されることを確認。</p>	<p>水平 : 2.01</p> <p>鉛直 : 1.77</p>	加振後に正常 に動作するこ と

設備	記載箇所	評価部位	要求機能	加振方向	試験内容	機能確認済加速度 ( $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ )	判定基準
火災感知器	V-2-別添1 -2	熱感知器	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5~33Hz の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が 33Hz 以上であることを確認。 2. サインビート波加振試験 33Hz における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：4 鉛直：3	加振後に正常に動作すること
		煙感知器	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5~33Hz の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が 33Hz 以上であることを確認。 2. サインビート波加振試験 33Hz における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：4 鉛直：3	加振後に正常に動作すること
		煙感知器（防暴型）	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5~33Hz の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が 33Hz 以上であることを確認。 2. サインビート波加振試験 33Hz における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：10.00 鉛直：5.00	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位	要求機能	加振方向	試験内容	機能確認済加速度 ( $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ )	判定基準
		熱感知器 (防爆型)	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験 5~33Hz の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が 33Hz 以上であることを確認。</p> <p>2. サインビート波加振試験 33Hz における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。</p>	<p>水平 : 10 鉛直 : 10</p>	加振後に正常に動作すること
		煙感知器 (光電分離型)	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験 5~33Hz の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が 33Hz 以上であることを確認。</p> <p>2. サインビート波加振試験 33Hz における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。</p>	<p>水平 : 10.00 鉛直 : 5.00</p>	加振後に正常に動作すること
		煙吸引式検出設備	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	<p>1. 共振点検索試験 5~33Hz の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が 30.4Hz (X 方向), 33Hz 以上 (Y 方向), 33Hz 以上 (Z 方向) であることを確認。</p> <p>2. サインビート波加振試験 30.4Hz (X 方向), 33.0Hz (Y 方向), 33.0Hz (Z 方向) における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。</p>	<p>水平 : 4.00 鉛直 : 3.00</p>	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位	要求機能	加振方向	試験内容	機能確認済加速度 ( $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ )	判定基準
		煙吸引式検出設備 (防湿型)	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5~33Hz の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が 33Hz 以上であることを確認。 2. サインビート波加振試験 33Hz における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平 : 5.00 鉛直 : 5.00	加振後に正常に動作すること
		炎感知器	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5~33Hz の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が 33Hz 以上であることを確認。 2. サインビート波加振試験 33Hz における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平 : 12.00 鉛直 : 6.00	加振後に正常に動作すること
		熱感知カメラ	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5~33Hz の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が 23.76Hz (X 方向), 21.76Hz (Y 方向), 33Hz 以上 (Z 方向) 以上であることを確認。 2. サインビート波加振試験 23.76Hz (X 方向), 21.76Hz (Y 方向), 33Hz (Z 方向) における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平 : 12.00 鉛直 : 6.00	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位	要求機能	加振方向	試験内容	機能確認済加速度 ( $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ )	判定基準
火災受信機盤	V-2-別添1 -3	盤内の器具 ・パソコンパネル	地震後の電气的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5~33Hz の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が 33Hz 以上 (X 方向), 26.3Hz (Y 方向), 33Hz 以上 (Z 方向) 以上であることを確認。 2. サインビート波加振試験 33Hz (X 方向), 26.3Hz (Y 方向), 33Hz (Z 方向) における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平 : 3 鉛直 : 2	加振後に正常に動作すること
		盤内の器具 ・パソコンパネル以外のもの	地震後の電气的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5~33Hz の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が 33Hz 以上であることを確認。 2. サインビート波加振試験 33Hz における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平 : 3 鉛直 : 2	加振後に正常に動作すること
ボンベラック	V-2-別添1 -4	二酸化炭素消火設備容器弁	地震後の動的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5~33Hz の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が 33Hz 以上であることを確認。 2. サインビート波加振試験 33Hz における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平 : 4.0 鉛直 : 3.0	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位	要求機能	加振方向	試験内容	機能確認済加速度 ( $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ )	判定基準
		小空間固定式消 火設備容器弁	地震後の動的機 能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5~33Hz の周波数領域を含む正弦波を入 力し、応答波形から共振点が 33Hz 以上で あることを確認。 2. サインビート波加振試験 33Hz における加振試験を行い、機能が維 持されることを確認。	水平：10.0 鉛直：10.0	加振後に正常 に動作するこ と
		SLC ポンプ・CRD ポンプ局所消火 設備容器弁	地震後の動的機 能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5~33Hz の周波数領域を含む正弦波を入 力し、応答波形から共振点が 33Hz 以上で あることを確認。 2. サインビート波加振試験 33Hz における加振試験を行い、機能が維 持されることを確認。	水平：10.0 鉛直：10.0	加振後に正常 に動作するこ と
		電源盤・制御盤消 火設備容器弁	地震後の動的機 能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5~33Hz の周波数領域を含む正弦波を入 力し、応答波形から共振点が 32.0Hz (X 方 向), 32.6Hz (Y 方向), 33Hz 以上 (Z 方 向) であることを確認。 2. サインビート波加振試験 32.0Hz (X 方向), 32.6Hz (Y 方向), 33.0 (Z 方向) における加振試験を行い、機能 が維持されることを確認。	水平：3.10 鉛直：2.30	加振後に正常 に動作するこ と

設備	記載箇所	評価部位	要求機能	加振方向	試験内容	機能確認済加速度 ( $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ )	判定基準
		ケーブルトレイ 消火設備容器弁	地震後の動的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5～33Hz の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が 33Hz 以上であることを確認。 2. サインビート波加振試験 33Hz における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：3.10 鉛直：2.30	加振後に正常に動作すること
		中央制御室床下 フリーアクセス フロア消火設備 容器弁	地震後の動的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5～33Hz の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が 29.4Hz (X 方向), 29.8Hz (Y 方向), 33Hz 以上 (Z 方向) であることを確認。 2. サインビート波加振試験 29.4Hz (X 方向), 29.8Hz (Y 方向), 33.0 Hz (Z 方向) における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：3.10 鉛直：2.30	加振後に正常に動作すること
		5 号機原子炉建 屋内緊急時対策 所消火設備容器 弁	地震後の動的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 1～40Hz の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が 40Hz 以上であることを確認。 2. サインビート波加振試験 40Hz における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：3 鉛直：2	加振後に正常に動作すること

設備	記載箇所	評価部位	要求機能	加振方向	試験内容	機能確認済加速度 ( $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ )	判定基準
選択弁	V-2-別添1 -5	二酸化炭素消火 設備選択弁	地震後の動的機 能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5~33Hz の周波数領域を含む正弦波を入 力し、応答波形から共振点が 33Hz 以上で あることを確認。 2. サインビート波加振試験 33Hz における加振試験を行い、機能が維 持されることを確認。	水平：4.0 鉛直：3.0	加振後に正常 に動作するこ と
制御盤	V-2-別添1 -7	制御盤	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 5~33Hz の周波数領域を含む正弦波を入 力し、応答波形から共振点が 20Hz 以上で あることを確認。 2. サインビート波加振試験 20Hz における加振試験を行い、機能が維 持されることを確認。	水平：6.00 鉛直：4.00	加振後に正常 に動作するこ と

設備	記載箇所	評価部位	要求機能	加振方向	試験内容	機能確認済加速度 ( $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ )	判定基準
循環水系隔離システム ・漏えい検知	V-2-別添 2 -4	電極式水位検出器	地震後の電气的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [ ] の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [ ] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [ ] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平 : [ ] 鉛直 : [ ]	加振後に正常に動作すること
タービン補機冷却水系隔離システム ・漏えい検知	V-2-別添 2 -5	電極式水位検出器	地震後の電气的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [ ] の周波数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [ ] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [ ] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平 : [ ] 鉛直 : [ ]	加振後に正常に動作すること

3. 模擬地震波（ランダム波）を用いた加振試験について

3.1 7号機地下水排水設備（サブドレンポンプ）および5号機地下水排水設備（サブドレンポンプ）の加振試験について

(1) サブドレンポンプの構成について

サブドレンポンプの構成を以下の図3-1に示す。

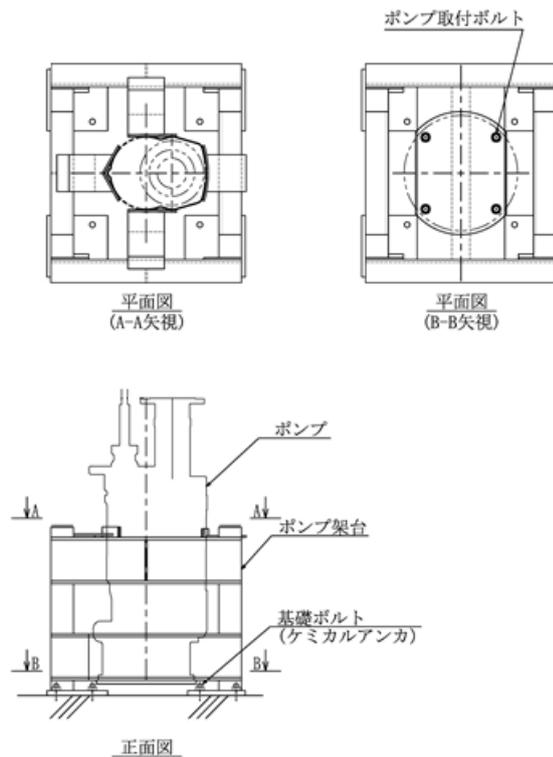


図3-1 サブドレンポンプの構造図

(2) サブドレンポンプの設置場所について

サブドレンポンプの設置場所を以下に示す。

- ① 7号機原子炉建屋サブドレンピット (7R-4-1) T. M. S. L. -15.25m
- ② 7号機タービン建屋サブドレンピット (7T-6) T. M. S. L. -13.05m
- ③ 5号機原子炉建屋サブドレンピット (5R-1) T. M. S. L. -25.55m
- ④ 5号機原子炉建屋サブドレンピット (5R-2) T. M. S. L. -25.55m

(3) 加振波について

サブドレンポンプの加振試験には、設計評価用床応答曲線（以下「設計評価用FRS」という。）を用いる。尚、設計評価用FRSは、(2)に示すサブドレンポンプの設置場所及び設置高さにおける床応答曲線を包絡した模擬試験波（ランダム波）とする。

(4) 加振試験の実施方法について

加振台上にサブドレンポンプの実際の現場における設置状態を模擬したのち、(3)の加振波を入力波として、3軸同時加振試験を実施した。

模擬地震波（ランダム波）による試験を行い、試験後においてポンプの機能が維持されることを確認した。機能維持確認結果については、「2. 加振試験の概要」に示す。

(5) 加振試験結果と設置場所の設備評価用 FRS の包絡性確認

加振試験にて測定した加振台の床応答曲線（以下「加振台の FRS」という。）が設計評価用 FRS を包絡していることを確認した。

7号機地下水排水設備（サブドレンポンプ）および5号機地下水排水設備（サブドレンポンプ）の加振試験を行った際の加振台の FRS と、設計評価用 FRS を比較した結果を図 3-2 から図 3-4 に示す。

減衰定数：1.0%

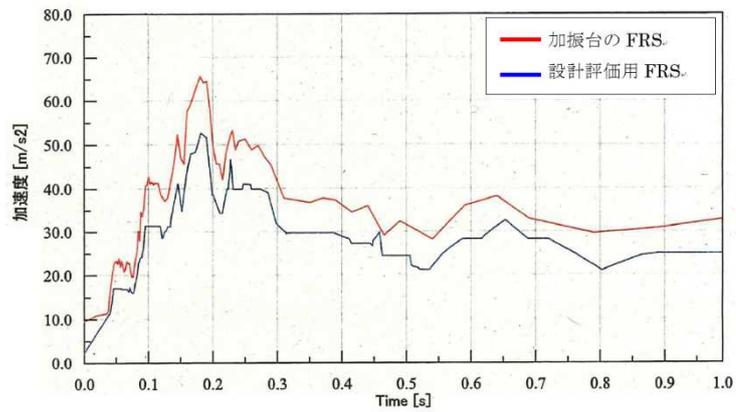


図 3-2 加振台の FRS と設備評価用 FRS の比較結果 (NS 方向)

減衰定数：1.0%

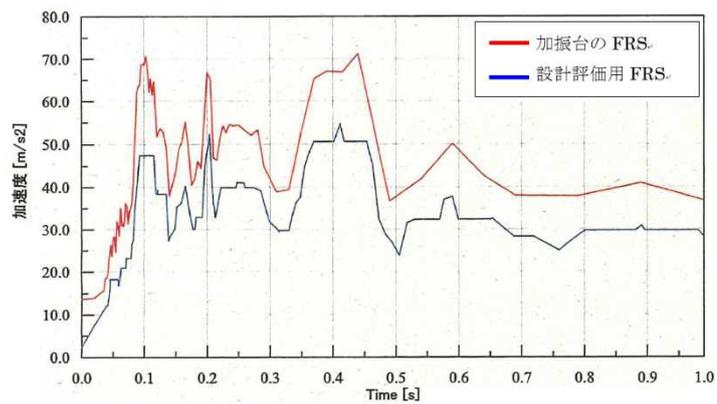


図 3-3 加振台の FRS と設備評価用 FRS の比較結果 (EW 方向)

減衰定数：1.0%

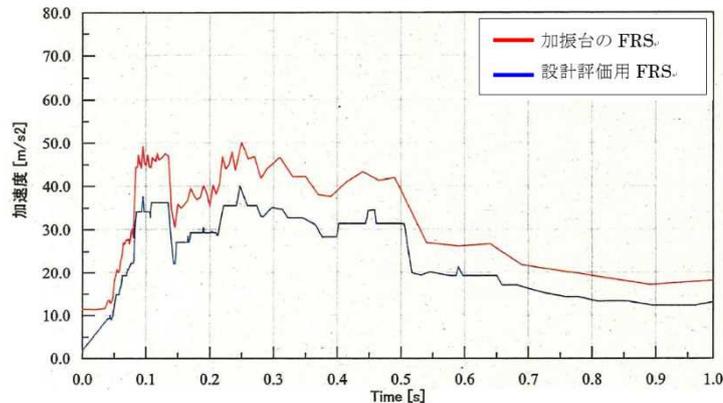


図 3-4 加振台の FRS と設備評価用 FRS の比較結果 (UD 方向)

### 3.2 遠隔手動弁操作設備の加振試験について

#### (1) 遠隔手動弁操作設備の構成について

遠隔手動弁操作設備は、格納容器圧力逃がし装置及び耐圧強化ベント系の隔離弁を原子炉建屋二次格納施設外から人力により開閉操作するための設備である。

遠隔手動弁操作設備の構成要素のうち駆動力を伝達する等速ジョイントは、剛構造のマイタギヤボックス、ヘリカルパワードライブ又はベアリングユニットを経由して対象弁に接続され、マイタギヤボックス、ヘリカルパワードライブ及びベアリングユニットは剛構造の支持構造物を経由して基礎ボルトにより原子炉建屋の床又は壁に固定されている。

各隔離弁の遠隔手動弁操作設備の構成要素は基本的に同じであるが、隔離弁から操作位置までの経路は各々の遠隔手動操作設備で異なることから、構成要素の寸法や個数が異なる。

遠隔手動弁操作設備の外観図の例を図 3-5、構成要素を表 3-1 に示す。

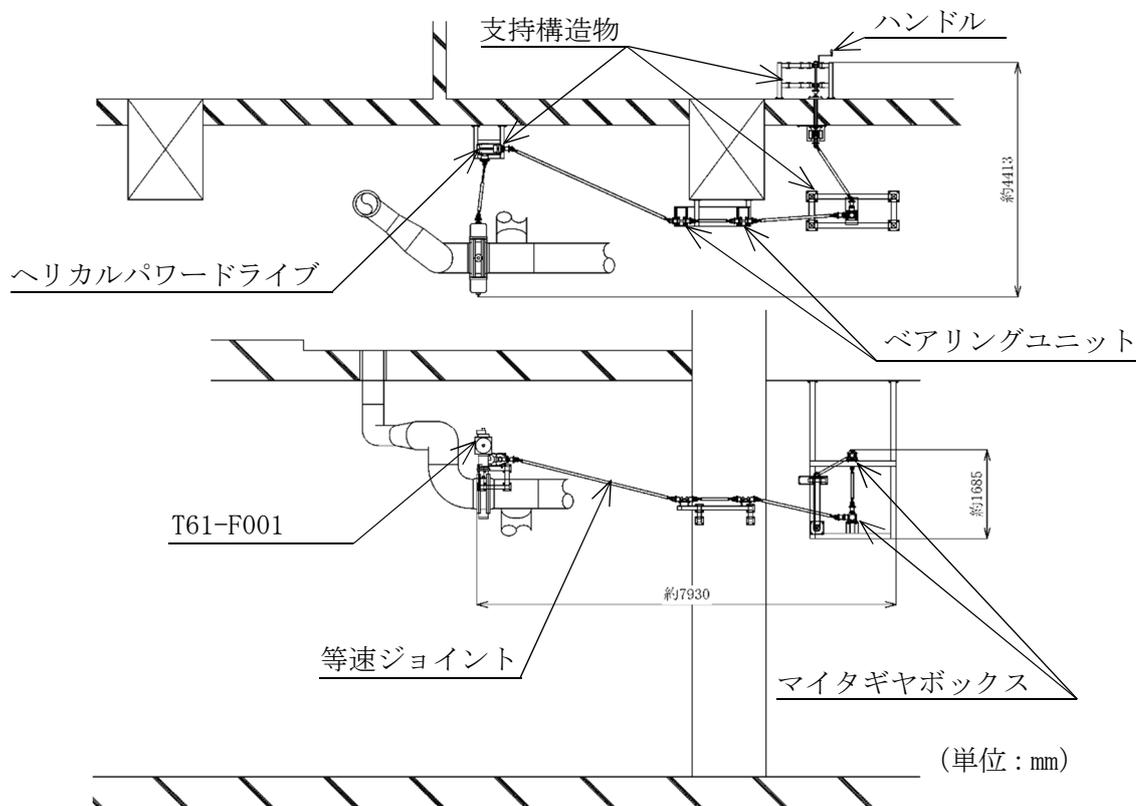


図 3-5 遠隔手動弁操作設備の外観図 (T61-F001 の場合)

表 3-1 遠隔手動弁操作設備の構成要素

等速ジョイント
マイタギヤボックス
ヘリカルパワードライブ
ベアリングユニット
支持構造物

(2) 遠隔手動弁操作設備の設置場所について

遠隔手動弁操作設備の設置場所を以下に示す。

- ① 遠隔手動弁操作設備 (T31-F019) :T. M. S. L 18100mm
- ② 遠隔手動弁操作設備 (T31-F022) :T. M. S. L 4800mm, T. M. S. L 8500mm
- ③ 遠隔手動弁操作設備 (T31-F070) :T. M. S. L 23500mm
- ④ 遠隔手動弁操作設備 (T31-F072) :T. M. S. L 23500mm
- ⑤ 遠隔手動弁操作設備 (T61-F001) :T. M. S. L 23500mm
- ⑥ 遠隔手動弁操作設備 (T61-F002) :T. M. S. L 23500mm

(3) 構成要素毎の加振試験

遠隔手動弁操作設備の構成要素のうち、マイタギヤボックス、ヘリカルパワードライブ、ベアリングユニットは共振点探索試験により剛構造であることを確認している。また、支持構造物については、原子炉建屋と共振しないように十分な剛性を持たせた設計としている。

そのため、遠隔手動弁操作設備の原子炉建屋への固定部はアンカと見なすことができ、構成要素間の連成影響は無視できることから、遠隔手動弁操作設備の加振試験は構成要素毎に分けて実施することとした。

(4) 模擬地震波（ランダム波）を用いた加振試験を行う構成要素について

遠隔手動弁操作設備の構成要素のうち、最も長く重い等速ジョイント（伸縮機構無し）の1次固有周期は、共振点探索試験において [ ] (計算機プログラム「ABAQUS」による解析において0.094s) であり、柔構造であることから共振に対する考慮が必要となる。そのため、遠隔手動弁操作設備の構成要素のうち等速ジョイントについては、模擬地震波（ランダム波）を用いた加振試験を実施することとした。

(5) 代表選定について

等速ジョイントの構造は、長さが変わっても同じであり、その固有周期は短く軽くなるほど小さくなることから、各等速ジョイントの固有周期は [ ] 以下であると考えられる。ここで、耐震計算で用いている原子炉建屋 (T. M. S. L31700mm) の設計用床応答曲線は図3-6のとおりであり、固有周期が [ ] 以下の範囲では震度は減少傾向となり [ ] の震度が最大となることから、最も長く重い等速ジョイントの地震荷重が最大となる。また、長く重い等速ジョイントほど地震荷重によるたわみ量も大きくなる。

以上のことから、長く重い等速ジョイントほど、構造上最も厳しい評価となることから、最も長く重い等速ジョイントを加振試験の代表機器に選定した。

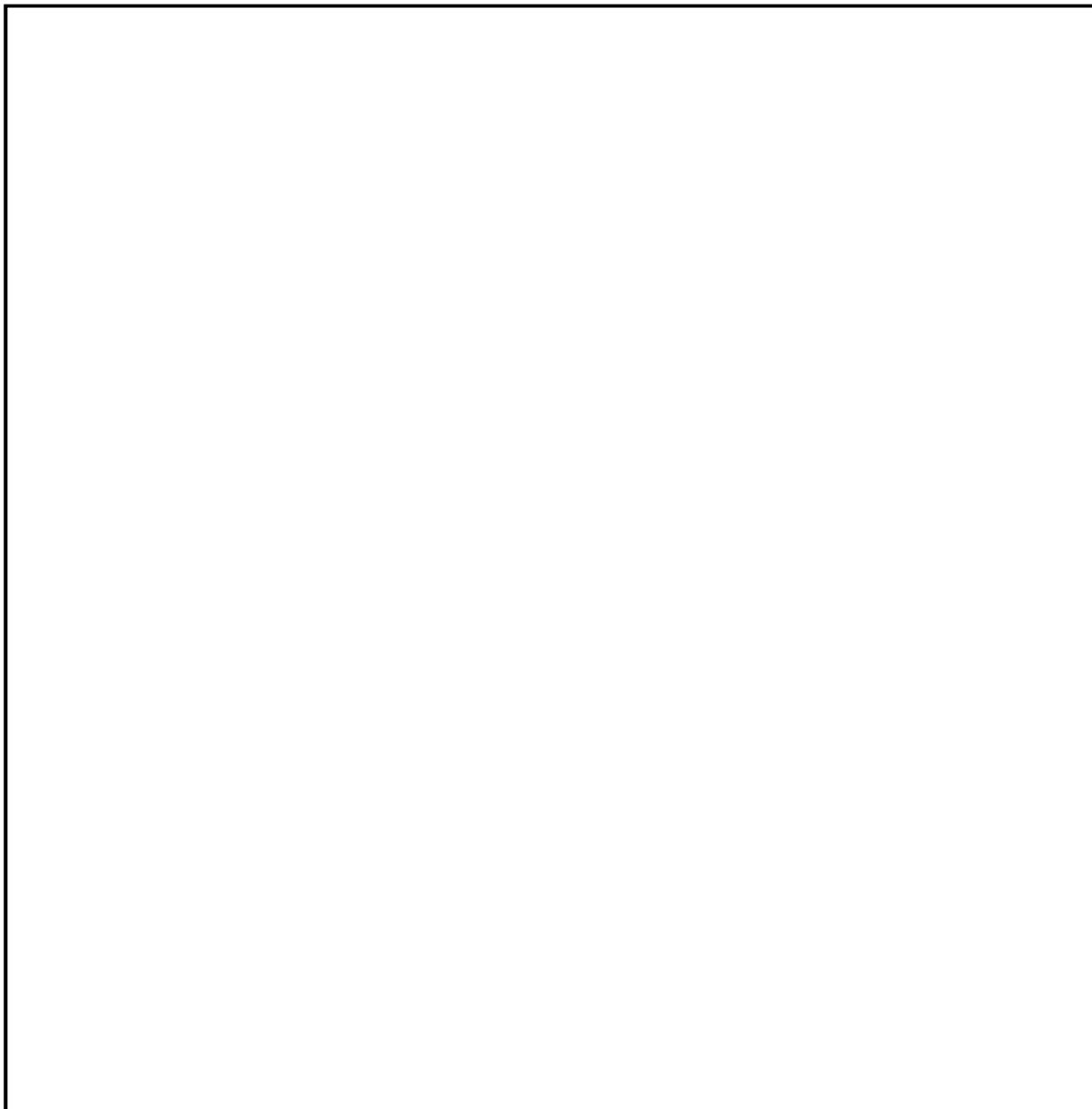


図 3-6 設計用床応答曲線（原子炉建屋，減衰定数：1%，標高：T. M. S. L 31700mm）

(6) 加振試験方法

耐震計算で用いている原子炉建屋（T. M. S. L31700mm）の設計用床応答曲線を包絡するような加振波を生成し，各軸単独加振試験を実施した。なお，加振波は次のように生成した。

機器の据付位置における設計用床応答曲線と等価な試験用床応答曲線を設定し，ランダム波を作成する。作成されたランダム波を入力とした加振台の時刻歴加速度波形から床応答曲線に変換し，試験用床応答曲線と比較する。ここで加振台での床応答曲線が試験用床応答曲線を満足する場合，これを最終的な入力加振波とする。満足していない場合，ランダム波を補正し，再度確認するプロセスを繰返して試験用床応答曲線を満足する入力加振波を作成する。

(7) 加振試験結果と設置場所の設計用床応答曲線の包絡性確認

図 3-7 に設計用床応答曲線及び加振台床応答曲線を示す。比較した結果、加振台床応答曲線が等速ジョイント（伸縮機構無し）の固有周期が存在する周期帯  において設計用床応答曲線を上回ることを確認した。また、加振試験後に動作試験を実施し、機器の機能が維持されることを確認した。

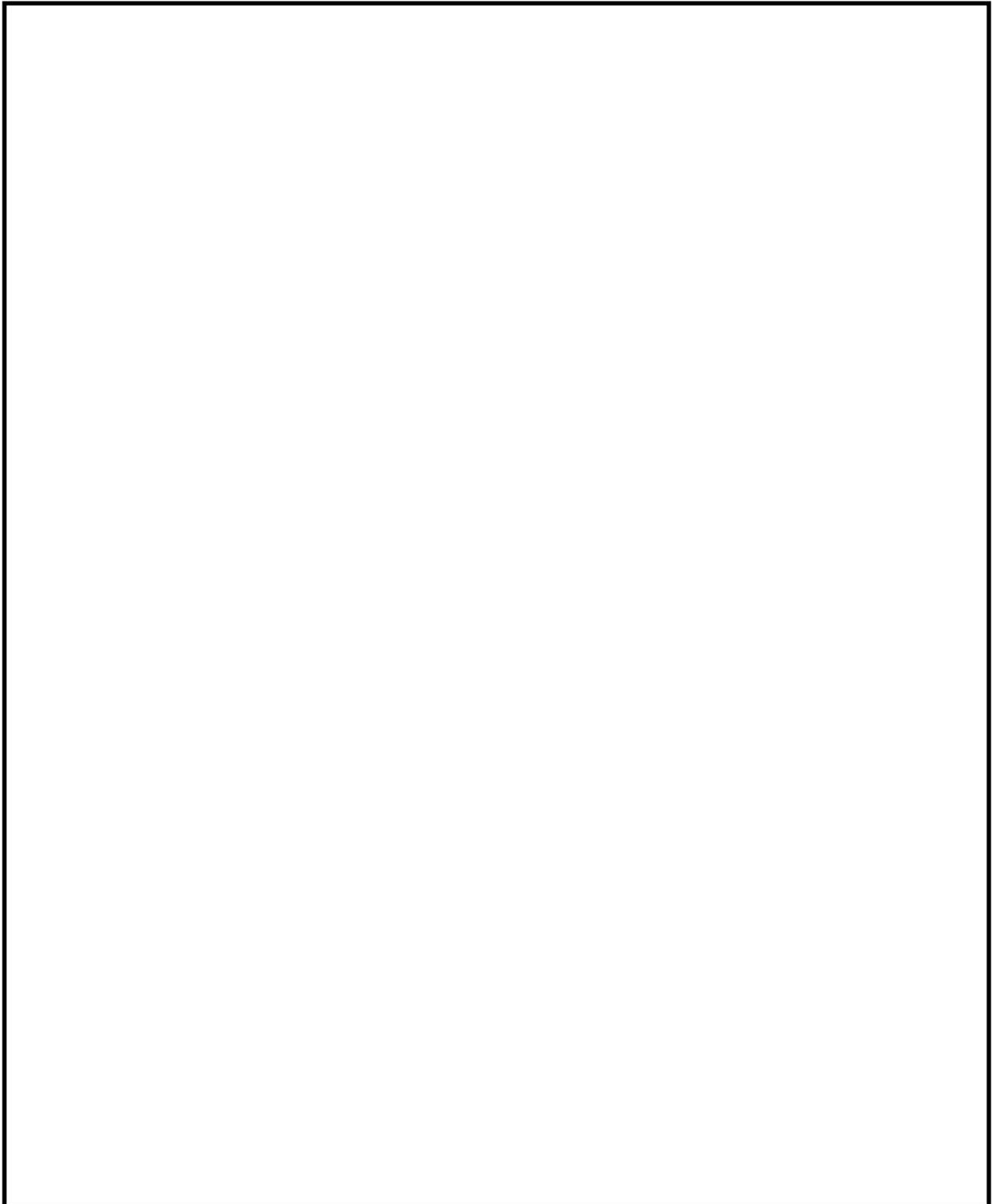


図 3-7 設計用床応答曲線と加振台床応答曲線との比較

### 3.3 5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部）二酸化炭素吸収装置の加振試験について

#### (1) 5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部）二酸化炭素吸収装置の概要について

5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部）二酸化炭素吸収装置の概要を以下の図 3-8 に示す。

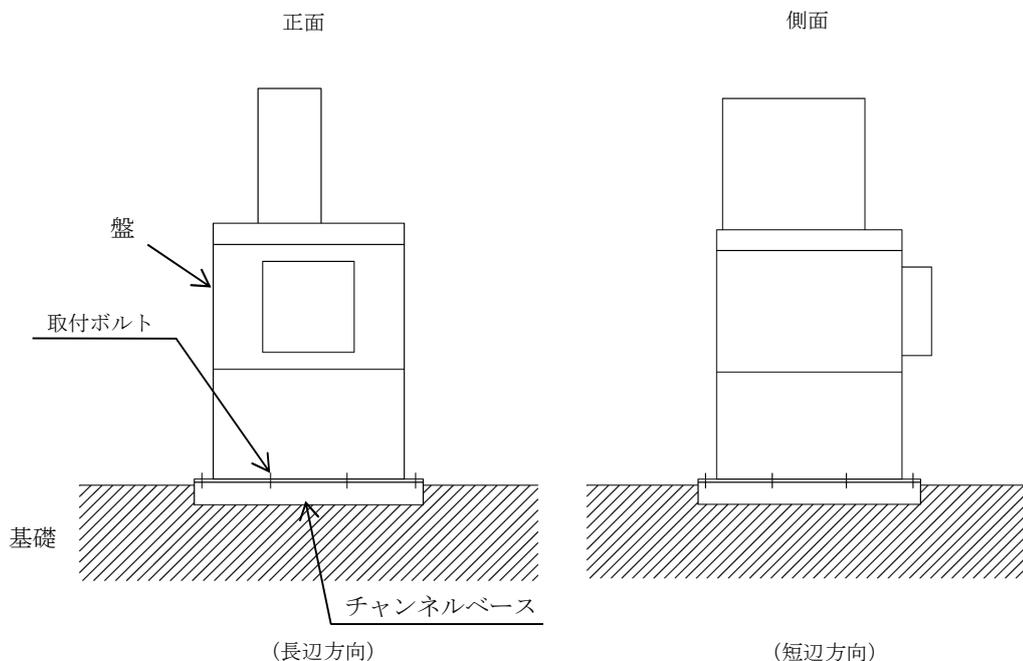


図 3-8 5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部）二酸化炭素吸収装置の概要図

#### (2) 5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部）二酸化炭素吸収装置の設置場所について

5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部）二酸化炭素吸収装置の設置場所を以下に示す。

- ① 5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部・高気密室）T. M. S. L. 28450mm

#### (3) 加振波について

5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部）二酸化炭素吸収装置の加振試験を実施するにあたり、設置場所である5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部・高気密室）のT. M. S. L. 27800mm及びT. M. S. L. 33000mmの設計用床応答曲線を包絡する加振試験の入力波を作成することとし、加振試験の入力波として、設置場所の設計用床応答曲線を包絡する模擬地震波（ランダム波）を準備した。

なお、5号機原子炉建屋内緊急時対策所（対策本部）二酸化炭素吸収装置は、共振点探索試験により剛構造であることを確認している。

試験の詳細については、「2. 加振試験の概要」に示す。

(4) 加振試験の実施方法について

加振台上に5号機原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)二酸化炭素吸収装置の実際の現場における設置状態を模擬したのち、(3)にて準備した模擬地震波(ランダム波)を入力波として、3軸同時加振試験を実施した。

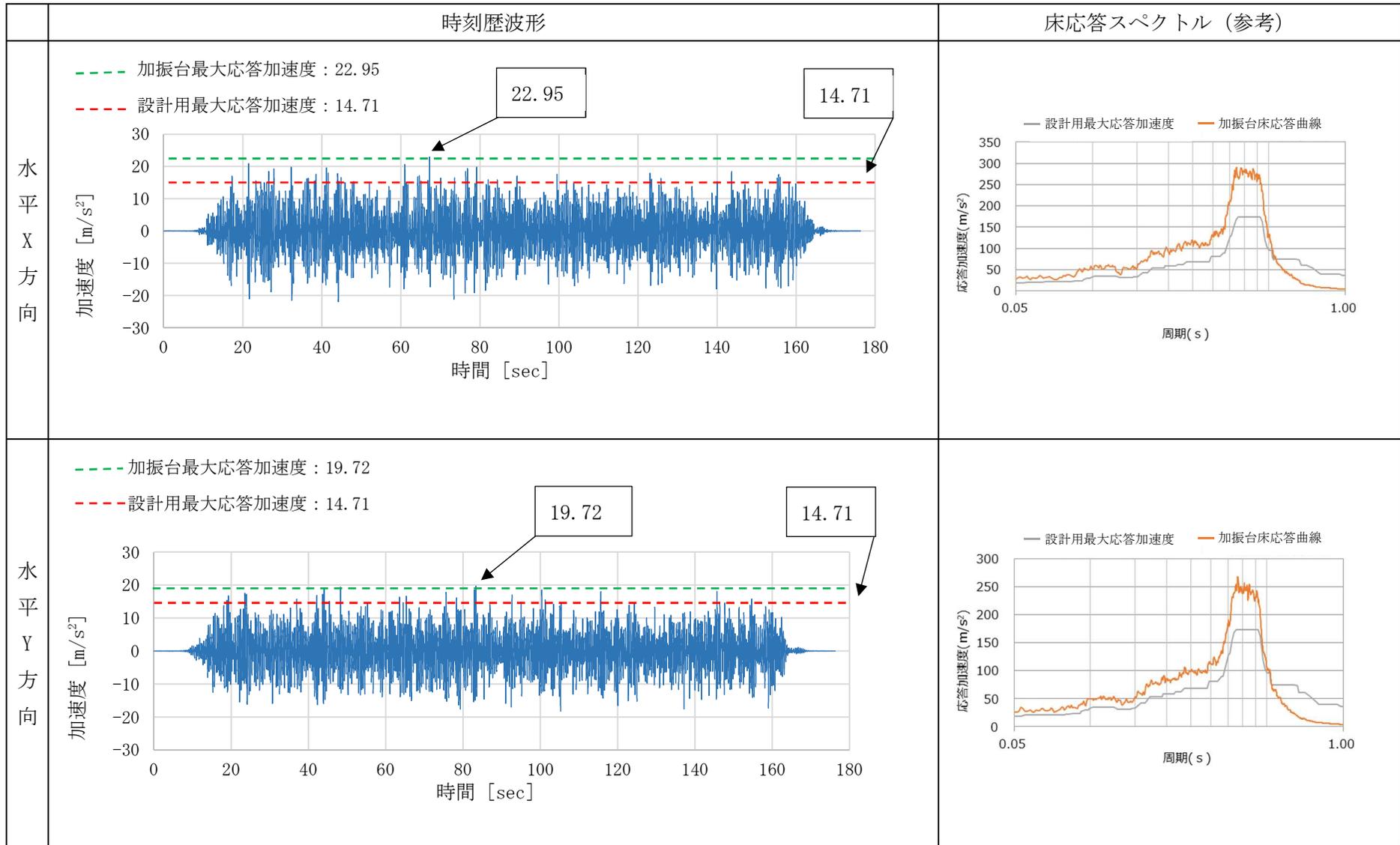
なお、5号機原子炉建屋内緊急時対策所(対策本部)二酸化炭素吸収装置は剛構造であることから、加振台の最大応答加速度が設置場所の設計用最大応答加速度を包絡していることを試験により確認するとともに、試験後においても機能が維持されることを確認する。

機能維持確認結果については、「2. 加振試験の概要」に示す。

(5) 加振試験結果と設置場所の設計用最大応答加速度の包絡性確認

図3-9に加振台の最大応答加速度と設置場所の設計用最大応答加速度の比較を示す。

比較した結果、加振台の最大応答加速度は、設置場所の設計用最大応答加速度を包絡していることを確認した。また、加振試験後に動作確認を実施し、機器の機能が維持されていることを確認した。



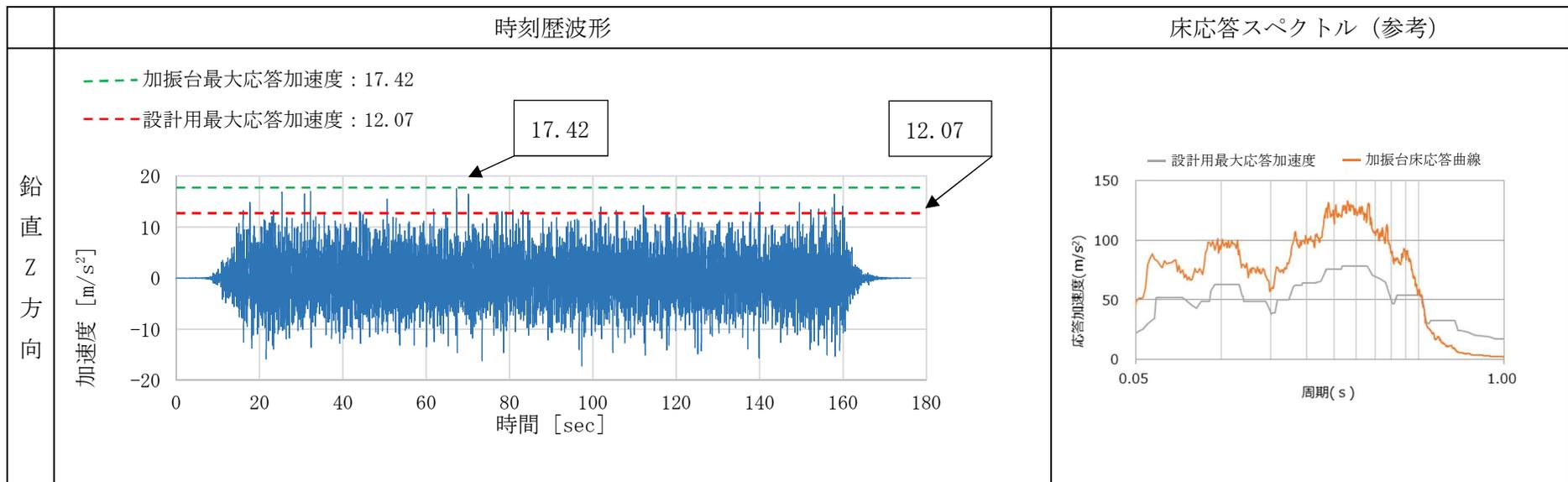


図 3-9 加振台の最大応答加速度と設置場所の設計用最大応答加速度の比較

#### 4. 評価用加速度の設定について

動的・電氣的機能維持評価に用いる評価用加速度は、動的・電氣的機能維持評価を要する器具を取り付ける支持構造物（盤、計装ラック、スタンション等）の構造と、加振試験の体系を踏まえ、以下の表 4-1 の考えに基づき設定する。

表 4-1 評価用加速度の設定について

	支持構造物の加振試験の有無	評価用加速度	機能確認済加速度	図解番号	具体例
支持構造物が剛な設備	無	1.0ZPA（設置床の最大応答加速度）	器具単体の加振試験により確認した加速度	図 4-1	AM 用 MCC 等
支持構造物が剛な設備	有	1.0ZPA（設置床の最大応答加速度）	支持構造物含めた加振試験において確認した加速度	図 4-2	サブドレン動力制御盤等
支持構造物が剛な設備	有	器具の取付位置に生じる応答加速度	支持構造物含めた加振試験において確認した加速度	図 4-3	遠隔手動弁操作設備
支持構造物が柔な設備	無	器具の取付位置に生じる応答加速度	器具単体の加振試験により確認した加速度	図 4-4	使用済燃料貯蔵プール水位・温度(SA 広域) 等

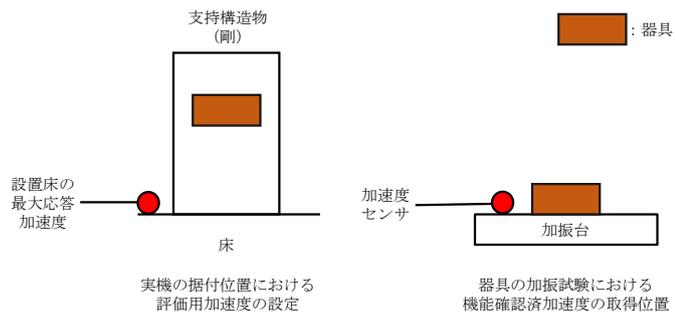


図 4-1 支持構造物が剛な設備かつ器具単体の加振試験を実施した場合

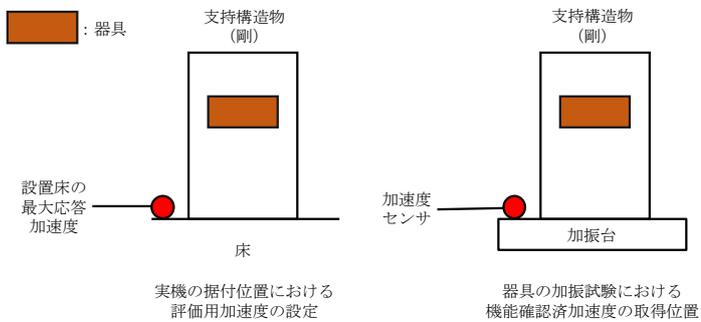


図 4-2 支持構造物が剛な設備かつ加振試験を実施した場合

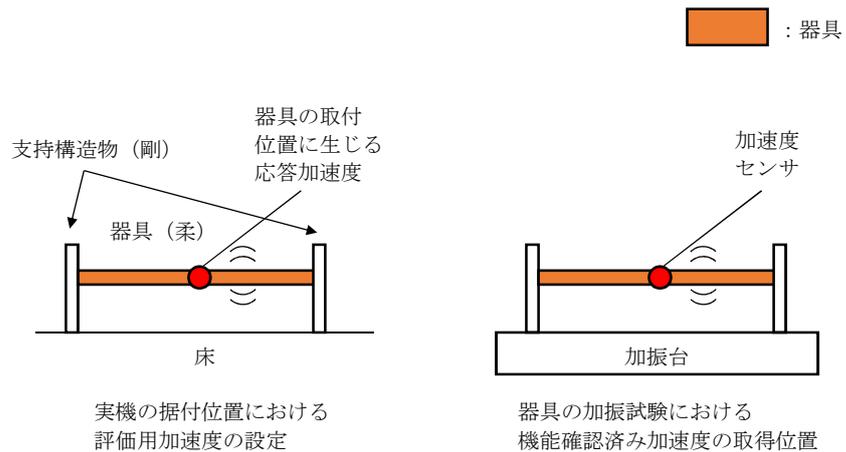


図 4-3 支持構造物が剛な設備かつ加振試験を実施した場合

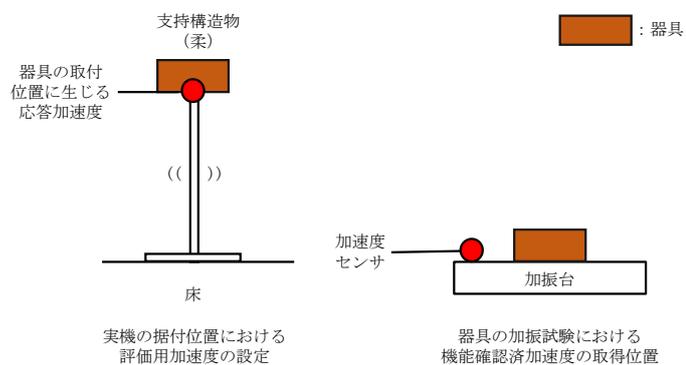


図 4-4 支持構造物が柔な設備かつ器具単体の加振試験を実施した場合